

令和7年産

稲作暦

(一般用)

※特別栽培米及び水稲採種栽培契約者へは別途暦、注文書を配布致します。
※特別栽培米を新たに作付希望の方は中央営農課及び最寄りの営農経済センターへお問い合わせ下さい。

島根県農業協同組合雲南地区本部
東部農林水産振興センター雲南事務所農業部
全国農業協同組合連合会
雲南農業振興協議会
雲南稲作推進協議会

特別栽培米及び水稲採種栽培契約者へは別途暦、注文書を配布します。特別栽培米を新たに作付希望の方は中央営農課及び最寄りの営農経済センターへお問合せ下さい。

目 次

○ 雲南地域の良質米生産について	P 1
○ 水稲の高温被害対策について	P 4
○ 玄米の品質を落とす種類と発生要因とその対策	P 7
○ 稲づくりの基本は土づくりから!!	P 8
○ 気象変動に負けないコメ作り	P10
○ 稲わら腐熟分解促進の必要性	P12
○ 耕起作業の注意点	P14
○ 水稲施肥 基本体系	P15
○ 水稲用除草剤の上手な使い方、選び方	P16
○ 「農薬」の省力散布についてご紹介	P21
○ 生育過程	P22
○ 水稲栽培施肥設計	P24
○ 病虫害防除体系	P38
○ 除草剤散布適期	P40
○ 初中期一発除草剤について	P42
○ 農薬使用にご注意ください!	P45
○ 除草剤使用履歴	P46
○ 藻類対策	P47
○ 斑点米カメムシ防除絶対!!	P49
○ イナゴ対策	P50
○ ウンカ対策	P51
○ 省力追肥	P52
○ 作業機を装着したトラクタで公道走行が可能となりました! ...	P53
○ 水稲圃場におけるイノシシ対策について	P54
○ コンバイン後方からの糞排出を少なくするためには?	P56
○ 主な水稲基肥側条銘柄の高比重	P57
○ 農作業カレンダー	P59

雲南地域の良質米生産について

雲南地域は良質米の産地として広く認識されています。しかしながら、近年は夏季の高温障害による未熟粒（心白粒、基部未熟粒、背白粒、腹白未熟粒）の発生が多く見られるようになり、品質の低下が顕著となっています。最近では、標高の高い地域でも、未熟粒の発生が多く見られます。高温下でも品質が安定している「きぬむすめ」や「つや姫」などへ品種転換を行うことで、10a当たりの所得確保に努めましょう。また、良質米生産を行うための土づくり（有機物の投入、有効土層の確保など）を行い、水管理、肥培管理、病虫害防除、適期刈取り、適切な乾燥調製の徹底により、消費者及び実需者が求める品質の良い、安全・安心な米づくりを行いましょう。

1. 土づくりについて

玄米の品質を向上させるためには、稲わらや完熟堆肥などの有機物の投入や、有効土層（根域）の確保が重要な要素となります。土づくりは、土壌の「物理性」「化学性」「生物性」の3つを基本に考えます。有効土層とは、植物の根が自由に貫入できる層を言います。

- ①物理性：土の硬さ、排水・保水性、通気性、土の粒の大きさやバランス、土の粘りなど
- ②化学性：pH、EC、窒素、リン酸、カリ、ミネラル、腐植のバランスなど
- ③生物性：微生物の数とバランス、有機物を分解する能力、土壌病原性微生物など

植物の地上部と地下部の考え方について、地上部に比べ地下の根の張りが小さいと作物は不健全となります。地下部の割合が大きいと、作物は健全な生育となり、増収や安定収量に繋がります。土づくりの目的は、有効土層を広げ、健全な根が伸びる土壌の環境を作り、根からの吸収率を高めることで、収量を上げることも可能となります。品質向上と収量確保に向けて土づくりを実践していきましょう。

雲南管内の土は、全体的に加里分・けい酸分・鉄分などが不足しています。植物が生育するためには、肥料の3要素（窒素、リン酸、カリ）以外にもミネラル成分が必要です。

稲は他の植物と違い、ケイ酸を多く吸収します。土づくり資材の投入や、稲わらの有効活用により吸収された養分や、溶脱した養分を補うことができます。

稲わらの有効活用を図るためにアグリ革命など腐熟促進剤の散布は、秋の刈取り直後か、地温の高い時期（15℃以上）での散布が最も適しています。完熟堆肥や腐熟促進剤、土づくり資材を施用して、地力の向上を図り、秋落ちしない健全な稲体づくりを心掛けましょう。

2. 健全な苗づくりについて

健全な苗を作ることは、病害虫の影響や初期生育に大きく関わります。育苗期間中での換気、灌水量に十分に気をつけて、健苗育成に取り組みましょう。また使用する種子は、種子更新されたものを使用しましょう。

育苗に使用する床土は、新しく購入したものを使用しましょう。床土は深さ2 cmに詰め、灌水は、箱の底まで浸透するよう十分に行いましょう。播種時の灌水量の目安としては、1箱あたり1.1～1.3リットルです。水が多いと根の伸びが悪くなり、カビの発生や根腐れの原因となります。水が少ないと出芽不揃いや根上がり苗の原因となります。大きな水粒での灌水は床土が破碎し目詰まりを招きますので、水粒の小さな水で優しく灌水するように心がけましょう。

3. 水田での水管理について

圃場条件に合った適切な量の元肥を施用し、健全な稲体づくりと米の品質向上を図りましょう。近年、稲わらの残渣による水田のガス湧きや藻類、浮草類が多く発生しています。軽度な中干しを定期的に行い、圃場内のガス抜きと酸素供給に努めましょう。中干し後の入水は、走り水、掛け流しを繰り返してから行い、幼穂形成期以降は飽水管理を行いましょう。

4. 除草について

除草剤は、散布後3日～4日かけて成分が土壌に吸着し処理層を作ります。そのため5日～7日間を目安に落水しないように注意し、散布後の効果を持続させるため、被膜を壊さないよう圃場には入らないようにしましょう。

また、除草効果を高めるため、田面を均一に整え、除草効果を持続させましょう。除草剤の散布効果は、初期剤、初中期剤、後期剤など体系的な処理により効果が高くなりますので、それぞれの除草剤の特性を確認し使用するようにしましょう。

5. 病害虫防除について

近年、イネカメムシの発生により被害が拡大傾向にあり、出穂期に籾の基部を加害することで、不稔米を発生させます。イネカメムシは、稲のみで増殖する特性があります。適期の防除が実施されていないと大幅な減収となります。出穂期から穂揃い期にかけて複数回の防除を行うことが効果的です。

また、ウンカによる坪枯れ被害、イナゴによる食害被害についても防除が大切です。長期残効性の箱施用剤を利用することにより、生育初期からの主要病害虫（イモチ病、紋枯病、カメムシ、ウンカ）について徹底した防除を行いましょう。

6. 登熟期からの水管理と適期刈取りについて

適期刈取りは「出穂期からの積算温度」と「青味籾率」を目安に判断します。水田圃場の様子を頻繁に観察し、青味籾率が10%～15%になったら刈取りを始めましょう。

また、玄米品質向上のための水管理について、登熟期から成熟期に水分が不足すると米の品質、収量に大きく影響が出ます。刈取り作業の効率を優先し、早くから水を落とされる傾向があり、胴割れ粒や乳白粒などの発生原因となっています。玄米品質向上のため、刈取り7日～10日前までは圃場に応じた通水管理を行いましょう。

7. 乾燥調製について

乾燥作業を始める前に、機械の点検及び清掃を行いましょう。急激な乾燥を行わず、玄米の品質保持のため、水分は14.3%～15.0%を目安に行いましょう。乾燥における品質低下の原因は、乾燥不足、過乾燥、乾燥ムラ、急激な乾燥による胴割れなどがあります。青未熟粒が多いと乾燥ムラや胴割れ、水分戻りの原因となります。2段乾燥によるテンパリング等、ゆっくりと乾燥を行いましょう。特に急激な乾燥や高温乾燥は、胴割れ米の発生原因になるので注意しまししょう。

乾燥機の水分計はあくまでも目安ですので、籾摺り前には点検を受けた水分計で確認してから籾摺りを開始しまししょう。また、籾摺り作業は、籾の温度を常温近くまで下げてから行うようにしまししょう。乾燥直後の籾摺りは、籾離れが悪く胴割れ粒、肌ずれ等品質低下を招きます。

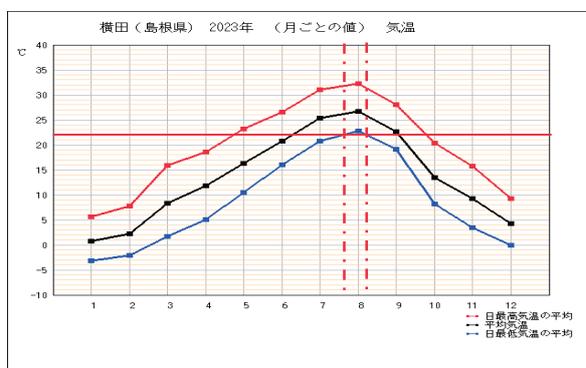
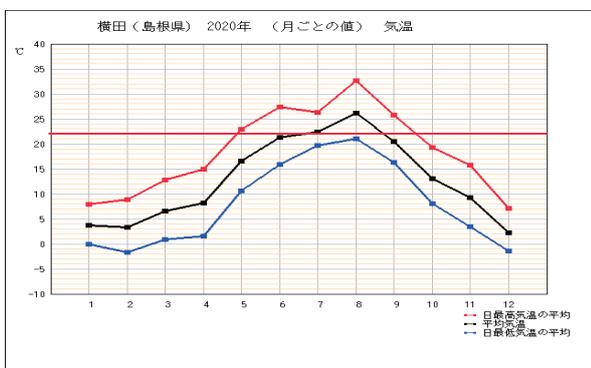
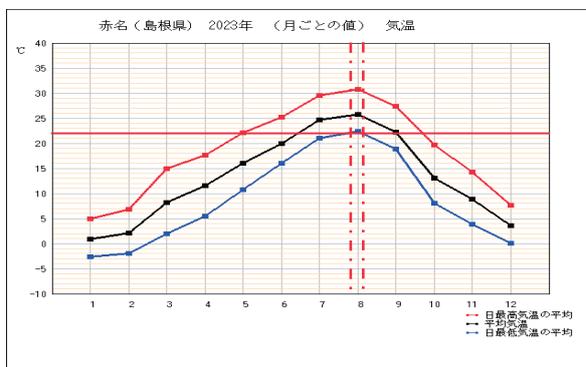
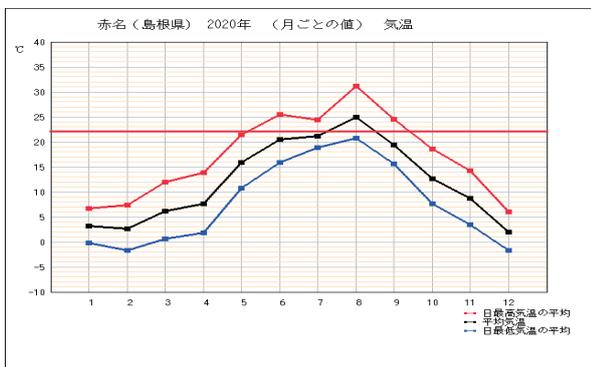
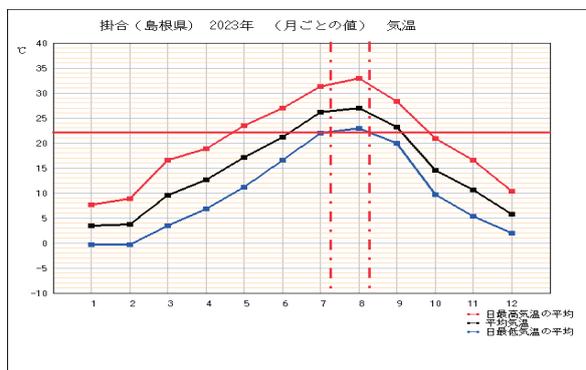
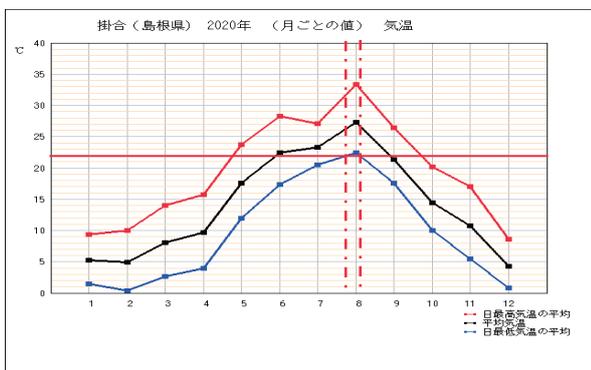
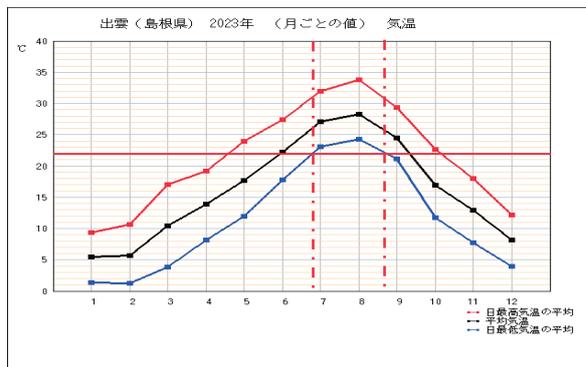
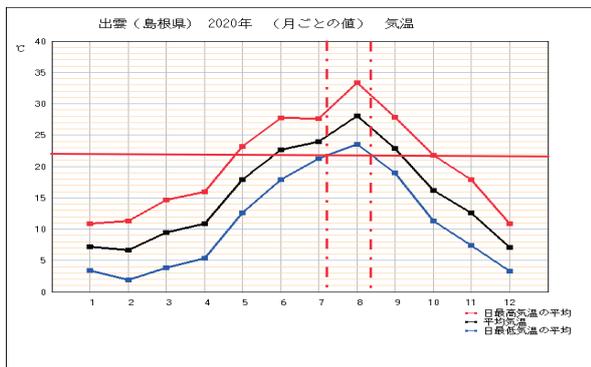
【注意事項】

栽培暦は米栽培の基準であり「種子更新」「農薬の適正使用の順守」「生産基準に基づく生産履歴簿の記帳」これらの3つを守って栽培して頂きますようお願いいたします。

1. 使用する資材は、原則として資材申込書に記載されているものとしますが、記載されていない資材を使用する場合は、事前にJAにご相談ください。
2. 農薬の安全使用基準を順守し、土壌改良資材の投入や土壌分析に取り組ましよう。
3. 適期収穫に努めましよう。
4. 生産履歴簿に記入漏れや間違いがないか確認しましよう。
5. 生産履歴簿（生産者自己点検チェックシート）の内容を確認して、記名・押印のうえ出荷申込書に併せて提出ください。

水稲の高温被害対策について

●近年の島根県内における水稲生育期間中における温度推移



上記グラフについては気象庁HP 過去の気象データから引用
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>より

赤の折れ線グラフ：日最高気温の平均
 黒の折れ線グラフ：平均気温
 青の折れ線グラフ：日最低気温の平均

近年、天候変化が著しく、水稻生育期間における長雨、高温化傾向が顕著になっており、白未熟粒、不稔粒などの多発をもたらし、米の品質を大きく低下させる原因となっています。また登熟期の高温による影響だけでなく、栽培上の水管理や肥培管理など栽培管理方法も関係しており、高温対策として品種選定、作期分散など見直しが必要となってきています。

管内の主力品種であるコシヒカリは、特に平均最低気温との相関が高く、22.5℃以上の気温となる気象条件では、乳白粒の発生が急激に高まることが報告されています。（島根農技報38より）

梅雨明け直後の高温期に水稻の出穂期が重なり、高温障害による被害発生しています。左記のグラフは、気象庁の過去のデータによる令和2年、5年の出雲、掛合、赤名、横田の気温の推移を表しています。グラフ上の赤色の横線は22℃のラインを示しており、縦の点線はその超過した期間を示しています。年々、高温期間が長期化する傾向にあり、登熟期間（出穂期～成熟期）がこの期間に当たると白未熟粒など高温障害が発生する確率が高まります。

●高温障害によって生ずる白未熟粒とその要因



上記の写真データは農林水産省HP 検査用語の解説（参照2023-5-30）より引用
https://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kensa/kome/k_kikaku/k_kaisetsu/より

白未熟粒において、胚乳の一部が白濁して見えるのは、胚乳細胞の肥大過程でデンプン粒の発達が不完全になるため、光の乱反射により生じます。胚乳内のデンプンの蓄積は、胚乳の中心部から周辺部、背部、基部へと進むことから、白未熟粒の白濁部位の違いは、デンプン蓄積の異常があった時期の違いを反映していると考えられ、胚乳中心部に白濁をもつ「乳白粒」では登熟初期に、「背白粒」及び「基部未熟粒」では登熟後期にデンプンの蓄積異常があったと推定されます。

品質低下を引き起こす要因

- ① 登熟期が異常に高温化すること
- ② 田植期が5月の初旬に集中し、出穂期が梅雨明け直後の盛夏と重なること
- ③ 分けつ期が高温下で過剰な生育となり、穂数や籾数が過剰となること
- ④ 食味を意識した施肥量の削減が登熟期の稲体の秋落ちを招くこと
- ⑤ 地力低下や作土層の浅耕化による根の活力が低下すること
- ⑥ 収穫前に早期落水すること

●高温障害に対する対策

- ① 気象変動（異常高温）に対応するためには健全な稲体作りが基本です。地力窒素（土壌からゆっくりと作物に供給される窒素）を効果的に発現させるためには、完熟堆肥の投入や、稲わら等の有機物を活用し、地力を向上させる必要があります。また、深耕により作土の上層と下層とで肥料成分のバランスを保ち、根の発育を促すため十分な有効土層を確保することが重要です。



有効土層13cm



有効土層17cm

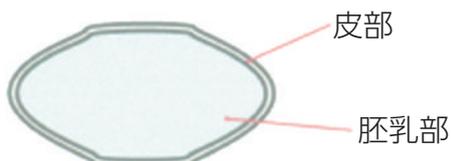
- ② 田植後の高温の影響によって、最高分げつ期が早まっている傾向があります。過剰な籾数の着粒によって白未熟粒の発生は助長されるため、生育前半（分げつ期）の生育量の制御が重要となります。1株あたりの茎数を確認し、適正な時期に中干しを実施することが大切です。
- ③ 中干し後は湛水、落水を繰り返す間断灌水を行うことで、水田のガス交換と酸素供給により根の発達を促します。特に出穂期は稲体の水分蒸散量が最も多くなる時期ですので、水分ストレスを抑えることが重要です。登熟期間における、夜間の通水管理が白未熟粒の発生軽減に高い効果が得られます。
- ④ 全量基肥施用（一発施肥）による省力体系の普及が進んでいます。肥料の溶出は地温に大きく影響されますが、夏季の高温により生育ステージよりも早く溶出が進み、早効きしてしまうことで、後半に肥料切れを起こしてしまう状況が見られます。体系施肥の取組みや、一発施肥体系においても葉色を観察し、肥料切れの症状が見られた場合は追肥の施用を検討する必要があります。
- ⑤ 登熟期の高温で収穫期が早まっていることや、収穫前の長雨により圃場が柔らかくなる心配から、収穫作業の効率を優先し、早めに落水される傾向があります。早期に落水すると、根の活力が低下し、充実した籾を形成するための栄養補給が不十分になることから、米に十分な厚みが形成されません。また、登熟不良による未熟粒や胴割粒などが発生し、見た目・味ともに品質が低下します。収穫前の段階でも水分補給が必要です。落水中にも高温が続く場合は「走水」を行い、补水することが重要です。

玄米の品質を落とす種類と発生要因とその対策

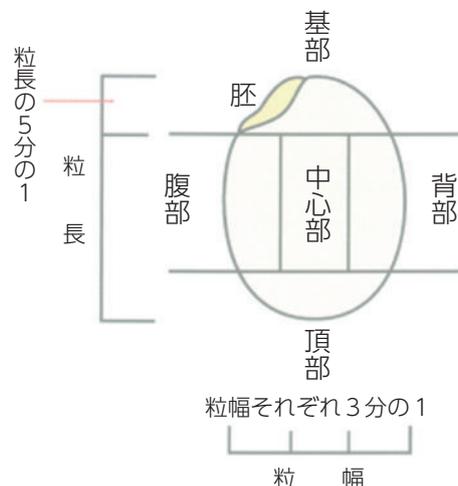
種類		発生要因		軽減対策		
		気象面	生育・管理面	気象面	生育・管理面	
未熟粒	白未熟粒	乳白粒  胚乳部に白色不透明な部分があり、かつ光沢のある粒をいう	・出穂後～20日間の高温(27℃以上) ・急激な籾の成熟でデンプンの供給が追いつかず、部分的にデンプンが発生する	・籾数過多 ・幼穂形成期の稲体窒素濃度が低い ・胚乳細胞の過大と養分蓄積不足	・出穂期が高温の時期に当たらないように田植を遅くして高温を回避 ・夜間通水により昼夜の温度差を作る	・土づくり ・作土深の確保 ・けい酸質資材の施用 ・籾数の適正化
		腹白未熟粒  腹部に白色不透明な部分のある粒をいう	・登熟中期の高温 ・低温ではほとんど発生しない ・多日照や高温による、穂の表面温度の高まり	・登熟期間の稲体の活力低下(出穂前後～成熟期までの水不足、生育後半の栄養不足) ・登熟期間の葉色が淡いと多発 ・登熟後期のデンプン蓄積不良		
		基部未熟粒  基部に白色不透明な部分のある粒をいう	・登熟後期の高温 ・低温でも発生する			
	青未熟粒  粒表面に葉色素が残り緑色を呈した粒をいう	・フェーン等による枝梗の枯れ上がり ・少雨等により、登熟後半の栄養凋落	・中干しの不徹底 ・過剰な基肥等により、生育量が過剰 ・穂肥の過不足	・低温、不良天候時田植による植え傷み ・出穂のバラつきによる登熟がバラつく	・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・けい酸質資材の施用 ・倒伏防止	
被害粒	胴割粒  胚乳部に亀裂のある粒をいう。	・出穂後10日間の高温(特に最高気温) ・登熟期間中の高温乾燥 ・出穂後30日空成熟期の多照	・高温登熟期の水不足 ・早期の落水 ・刈り遅れ	・出穂期が高温の時期に当たらないように田植えをずらす ・フェーンが予想される場合はあらかじめ入水	・登熟後半までの栄養状態の維持 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける) ・高温時の刈り遅れを防止	
	斑点米  表面に茶褐色の斑点が残った粒をいう。	・生育期間の気温が温暖に推移 ・登熟期間の高温 ・幼穂形成期の低温少日照	・畦畔雑草でのカメムシ類の増殖 ・適期防除の不徹底 ・畦畔、農道等の雑草処理の不備	・出穂期が高温の時期に当たらないように田植をずらして回避	・草刈りの徹底 ・出穂後の適切なカメムシ防除	

玄米の部位図

● 横断面



● 粒平面



※籾中のデンプンの詰まる順序

①中心部(乳熟初期)⇒②腹側(登熟中期)⇒③背側(登熟後期)⇒④基部(登熟後期)

稲づくりの基本は土づくりから!!

土づくりで良質米競争に勝とう!!

管内の土は全体的に加里分・けい酸分・鉄分などが不足しており、毎年実施される土壌分析でもその傾向が顕著にあらわれています。堆肥や土壌改良材を投入せずに長年作付してきた老朽化水田や養分の溶脱しやすい砂壤土の圃場では特にこれらの成分が不足している可能性がある為、土壌に不足した養分を補う事の出来る「土づくり」を実施し、良質米競争に打ち勝ちましょう!!

土壌診断の実施

稲刈り終了後、令和7年産米に向けて土の健康診断を行い、土壌の養分状況の確認を行いましょ。

1.採取場所

●圃場の5カ所程度から対角線採土法で土壌を採取する。

2.土のとりかた

●圃場内の5カ所、表土1cmぐらいを除いてからスコップで掘り穴をあけ、深さ10～15cmの作土を移植ゴテで取ります。

3.採取した土を乾かして篩にかけ提出

●採取した土は乾燥させて篩にかけ300g程度の検体として提出してください。



出ていませんかこんな症状!?



赤枯れ



ごま葉枯

これらは、近年の圃場で多く見られた症状です。

調査を行ったところ、土づくり不足における生理障害である可能性が高いことが分かりました。

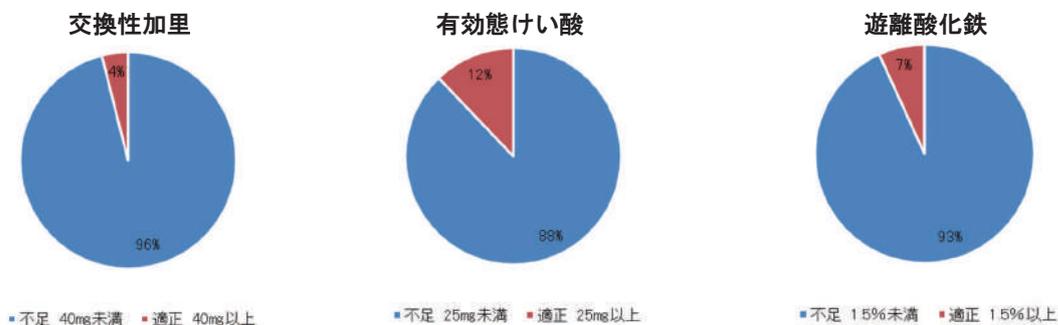
これらの症状が見られる圃場では、積極的に堆肥や土壌改良材などの施用を行い、地力の底上げが必要です。

調査結果では、管内の水田土壌の約8割がけい酸分・鉄分など稲の生育に必要な養分が不足となっています。

良質で安定した稲作生産に向けてまず「土づくり」を行いましょ。

土壌診断結果の確認

過去の土壌診断結果から、管内の土壌は良質米生産に重要な、加里分・けい酸分・鉄分が不足傾向にあります。



全農広域土壌分析センター広島調べ 分析点数に占める割合

●赤枯れ・ごま葉枯れなどの生理障害が発生している圃場は、土壌診断結果にもあるように、けい酸分や鉄分が不足しています。積極的な土づくり肥料の施用を行い、地力の底上げを行いましょ。

一年の計は土づくりにあります！ いざ、土壌診断に基づいた 土づくりを始めよう！★



1 最近まったく
収量がとれないな

横の圃場は収量が
良いみたいだけど
播種日は同じだった
のになんでだろう？

土づくりは
ちゃんとしてる？

うちは毎年
土壌診断をして
土づくりをしてから
栽培に入ってるよ

2 そういえば
土壌診断って
よく聞くけど
したことないな

土づくりもいつも
同じものを入れて
たんだよね

こんにちは！
何の話をされて
たんですか？

あ、あ！
良いところに
来てくれたね
土壌診断したこと
ないみたいで
おすすめなんだよ

3 そうなんです！
ありがたいですね

土壌診断を行うことで
不良土壌の改良や
適正施肥による
施肥コストの抑制に
繋がりますよ

施肥コスト
低減にも繋がる
のは嬉しいね！

どの資材をどの位
入れたら良いのかも
分かたりするの？

4 はい

おすすめの
土づくり肥料と
施肥量を合わせて
ご提案することも
できますよ！

それは良いね！
一回土壌診断して
みようかな！

自分の畑の健康
状態も知って
おかないとね

5 レーダーチャートで結果が
出るので成分毎に必要量
との比較も可能ですよ

必要量だけ施用すれば
良いので施肥コストを
抑えることもできます！

これだと何が
足りてないか
一目で分かって
良いね！

施肥コストも抑え
られるなら定期的
に土壌診断すること
も大切だね！

6 そうですね！

土壌診断を
しっかり行って
収量アップ
施肥コスト低減を
実現させましょう！

よし
さっそく
土壌診断
をお願いするよ！

そうと決まれば
さっそく
土壌採取しよう！

気象変動に負けないコメ作り

近年、地球温暖化の影響を受けて夏場の異常高温が問題となっています。

夜温を含めた極度の高温は乳白米の発生など品質低下の一因となるため人間の熱中症対策と同様で、イネも高温に備えた対策が必要です。

登熟期の異常高温によってイネは・・・



《対策》

(1)土づくりの励行

⇒島根県専用に作られた「田んぼの守」の施用+稲わらの鋤き込み

(2)深耕により細根の発生を促し、しっかりとした稲体を作る

⇒目標 15 cm

(3)適切な水管理で健全な根づくりの実践

⇒中干し前に

「けい酸加里」の施用+中干しの実施+収穫直前までの間断通水

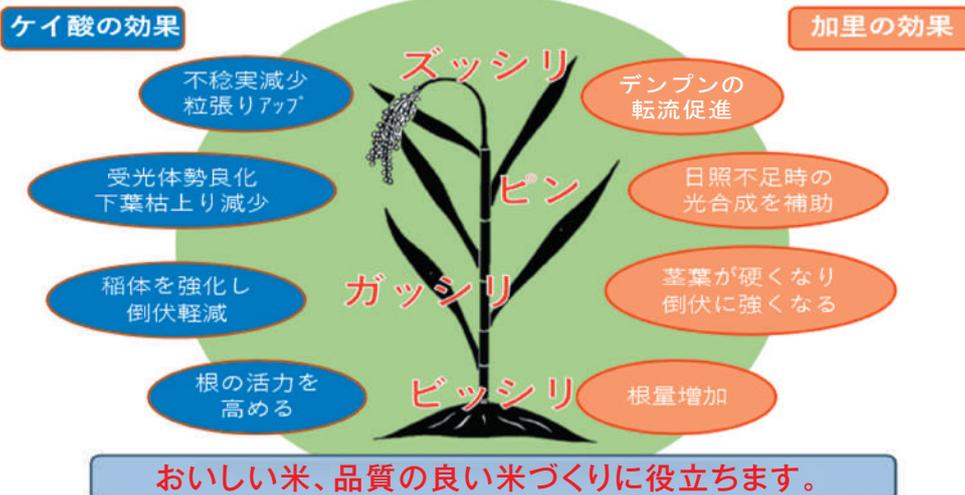
(4)ケイ酸の補給で高温対策を

⇒けい酸質資材を施用して稲体の温度を下げる



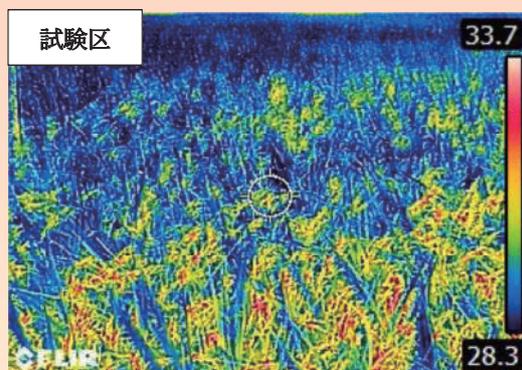
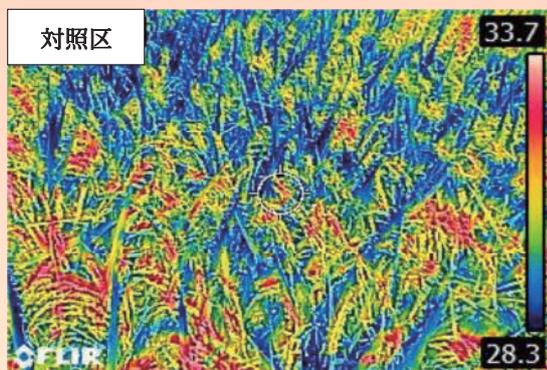
水稻に対するケイ酸と加里の効果

ケイ酸と加里はお互いに稲への働きを助け合い、より大きな効果が生まれます。



<ケイ酸の補給で高温対策を>

けい酸の施用で稲全体の温度が下がる



根張りが良くなる



ケイ酸を十分に吸収したイネは、根張りが良好になり、水分の吸収が高まります。そのため、高温下でも蒸散が活発になり、気化熱でイネの温度が下がります。

<おススメ肥料>



けい酸加里プレミア 34

けい酸加里は、

- ・利用率の高いケイ酸とク溶性のカリを高成分で保証
- ・成分はク溶性で、根から出る酸に溶けて吸収されるので、流亡することが極めて少なく、長効する肥料です。

保証成分 (%)				含有成分 (%)		
ケイ酸	20	シリカ	34	窒素	4	リン
カルシウム	0.1	石炭	7-12	鉄	2-5	ミネラル

《けい酸加里の使い方》

- ① 田植え前施用 40kg/10a
前面に散布し、土によく混和する。
- ② 中間追肥 20kg/10a
中干前に施用



～刈取りから田植え 1 か月前までの管理～稲わら腐熟のすすめ～

稲わら腐熟分解促進の必要性

①稲わらの分解が遅れると、浮きわらが発生しやすい



浮きわらが大量発生すると...

- (1) 水口が詰まり、水管理に支障が出る。
- (2) 苗を倒したり、欠株が発生。
- (3) 除草剤の拡散阻害が起こりやすい。



かき揚げ作業
は重労働！



②稲わらの分解が遅れると、ガス湧きが発生しやすい



ガス湧き圃場

腕を入れると、異臭とともに泡が多発

雲南地区本部管内で大きな問題

ガス湧きが起こると...

- (1) 稲の根が痛みやすく、養分を十分に吸収できないので、くず米が増えてします。(秋落ち現象)
ひどい圃場だと初期成育の段階で枯れてしまう恐れもあります。
- (2) ガスで表層剥離が起こりやすくなり、除草剤の処理層を壊してしまい除草効果が薄れてしまいます。

稲わら分解促進すれば、上記の問題解決
わらの養分を活かせば、地力向上に！

詳しくは次のページへ

稲わらに含まれる肥料成分

稲わら 600kg/10a中の成分量
(コシヒカリ相当)

けい酸 60kg～ りん酸 1kg前後
加里 10kg～ 苦土 1kg前後
窒素 3kg～

稲わらには土壌から吸収された養分が蓄積されています。
稲わらを土壌に鋤き込み、しっかり分解促進できれば
これらの成分を有効活用できます。(左表参照)

稲わらを鋤き込みすることで、土壌の物理的改善効果も期待できます。

注) わらを焼却処分してしまうとこれらの効果は期待できません

稲わら分解促進のためには

稲わら腐熟分解促進には以下の資材があります。中でもアグリ革命・アグリ革命アクアは稲わらに直接作用する酵素材のため、確実に腐熟をすすめることができ、近年利用者が増えています。

～稲わら腐熟分解促進材

1. 微生物資材 (豊土サングリーン)
 - ・数種の分解微生物がブレンドされた資材です。
 - ・微生物の活動に適した土壌条件 (気温/pH) であれば、微生物は稲わらを餌にし増殖します。
2. 分解酵素資材 (アグリ革命・アグリ革命アクア)
 - ・食物繊維を強力に分解する微生物から抽出した酵素資材です。(国内唯一特許製品(株)メニコン社製)
 - ・散布後1～2週間以内に、酵素反応が速やかに進み、分解が始まります。(わらが柔らかくなる)
 - ・微生物の増殖を待つ必要がないため、気温や土壌環境による影響を受けにくく、効果が安定。

※土壌改良材と併用する事で、酸性土壌が改善されて、分解微生物の動きが良くなります

アグリ革命の使用法と上手な使い方

アグリ革命は、細粒タイプと液剤タイプの2種類あります。液剤タイプのアグリ革命アクアは、ラウンドアップとの混用が可能です。液剤ボトルの底に酵素のかたまりが沈殿している場合は、よく振って溶かすか、または水で洗いタンクに投入しボトル内の酵素を有効的にお使いください。

「細粒」

超省力資材

有機JAS
特別栽培米 対応



10a分 2kg



※わらが濡れているときに施用してください
(雨後・朝露)



動力散布機で楽々散布

「液剤」

特別栽培米 OK

散布機に合わせて
自由な希釈
(700mℓ～300ℓ)



100mℓ



500mℓ



噴霧器

水 10～30ℓ/10a



ハイクリ・ブームスプレーヤーで散布
水 100～300ℓ/10a

無人ヘリコプター/ドローン散布拡大中



両散布機：10a アグリ革命アクア100mℓ+水700mℓ



施用時期

年内～春まで(田植え1か月前)。気温が低い地域では秋に散布して下さい。
散布後に浅く鋤き込むと(5～10cm)、より一層の効果が上がります。

耕起作業の注意点

POINT 1 畦畔管理

- ・ 畦塗りの徹底やあぜシートを設置する
- ・ 水尻周辺を丁寧に踏み固める
- ・ 止水板はあぜより高くする



POINT 2 代かき

- ・ 入水時までに田面の高低差をなくす
- ・ 代かきは浅水で行う
- ・ 強制排水ではなく、自然落水で水位を調整する

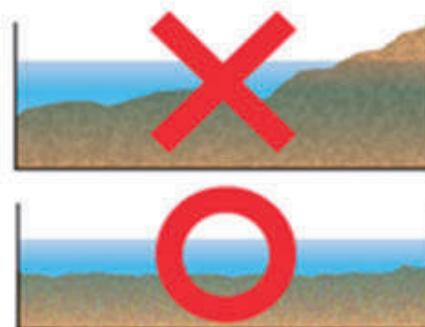


POINT 3 田植え

- ・ 田植え前の落水は行わず、自然落水で水位を調整する。

POINT 4 施肥

- ・ 栽培暦等により適正施肥に努める
- ・ 緩効性肥料や流し込み肥料等など、他の省力化技術の導入を検討する。



JALしまね

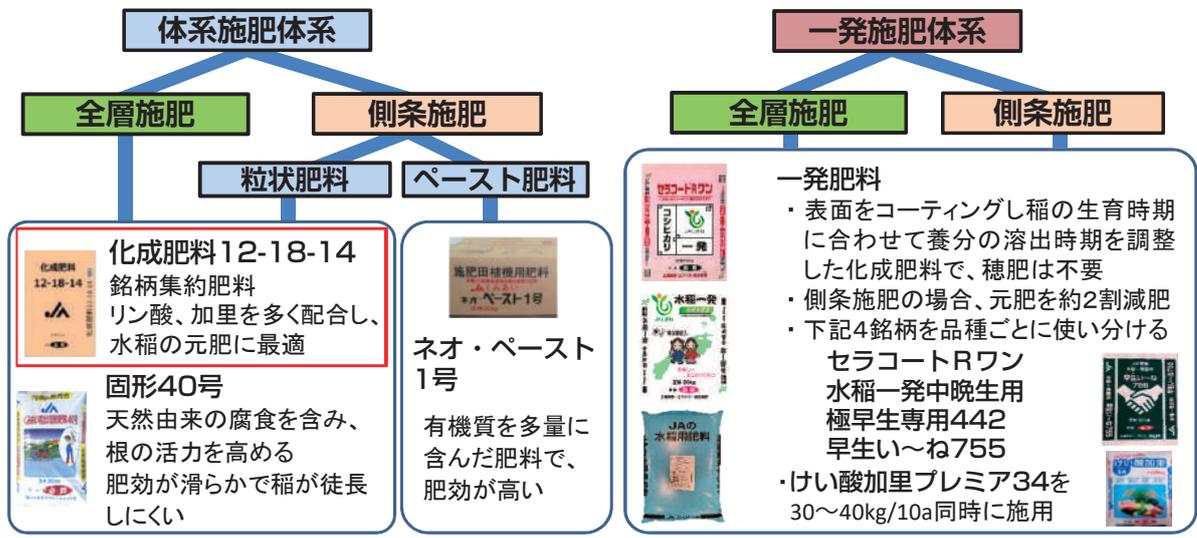
水田からの被覆肥料殻の流出防止対策

一発肥料を使用している水田では、田面水に分解されていない被覆肥料の殻が含まれている可能性があります。水田から被覆肥料の殻を流さないために上記の4つのポイントをしっかり守り、自然環境へ配慮しましょう。

水稻施肥 基本体系

土づくり
基肥
中間追肥
穂肥1回目
穂肥2回目
稲わら

田んぼの守
雲南専用土づくり肥料を基に開発された土づくり肥料。普及域拡大により生まれたスケールメリットを活かし成分値を向上し、コストを低減した。不足しがちな「鉄」「けい酸」とともに、微量要素を土壤に補給する。
・施用量：60～90kg/10a（使いやすい15kg袋）



リン酸肥料: 高冷地や初期生育が悪い場合に下記リン酸肥料のいずれかを施用【選択】

- 苦土重焼燐: 早効き・長効きのリン酸を含有
- リンスター30: 長期間効くリン酸を多く含有
- 重焼燐ミックス: リン酸に加え豊富なミネラル分を含有
- ホスピタ: リン酸は少ないが苦土含量が高い

けい酸加里プレミア34 (20 kg/10a)

けい酸加里の施用で

1. 乳白軽減
2. 食味値向上
3. 根張り向上

一発肥料を用いる場合でも、中間追肥としてのけい酸加里の施用可
・その場合の施用量は20 kg/10a

化成肥料17-0-17

- ・銘柄集約肥料
- ・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合 5 kg/10aで施用

穂肥34号

腐植を含む追肥用肥料
即効性・緩効性窒素含有

おてがるくんNK

手間がかかる追肥を流し込みにより省力化。簡単にムラなく施肥できる。

一発肥料の推奨品種

- セラコートRワン**
 - ・コシヒカリ
- 水稻一発中晩生用**
 - ・きぬむすめ、ミコトモチ
 - ・改良雄町
- 極早生専用442**
 - ・ヒメノモチ、峰の雪もち
 - ・五百万石
- 早生い〜ね755**
 - ・ココノエモチ
 - ・佐香錦

稲わら分解促進剤: 未分解の稲わらに由来するガス湧きを防ぎ、稲わらの養分を効率的に土壤に還元する

- アグリ革命 (粒)** (施用量: 1袋 (2 kg) / 10a)
田面が湿った状態で散布
- アグリ革命アクア (液剤)** (施用量: 100 ml / 10a)
10aに10ℓ～500ℓ (目安)の水で希釈し、散布
- 元肥用豊土サングリーン** (施肥量: 1袋 (5kg) / 10a)
稲わらを分解する微生物を含んだ資材

品種ごとの詳しい施肥量は水稻栽培施肥設計をご参照下さい。

<化成肥料の銘柄集約の取り組み>
中四国全域で肥料銘柄を集約し、化成肥料の価格を引き下げ、コスト削減を行っています。

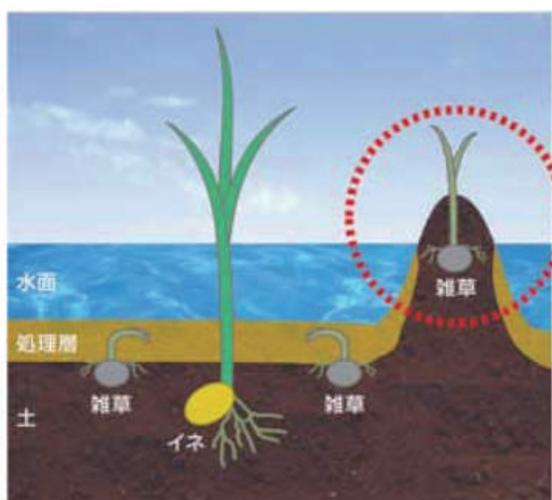
水稲用除草剤の上手な使い方、選び方

管理のポイント

- ① 丁寧な代かきは、除草効果を引き出す第一歩 p16
- ② 除草剤が効く仕組み ～うまく効果を出すために～ p17
- ③ 薬剤の散布前にはしっかり水を入れましょう p19
- ④ あぜの管理で漏水防止！ p19
- ⑤ 除草体系を見直してみましよう！ p20

ポイント
1

丁寧な代かきは、除草効果を引き出す第一歩

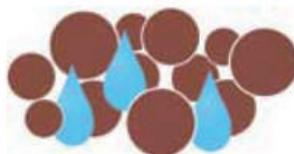


●代かきが ていねいでないと…

田んぼが均平にならず、田面が水から出ます。そうすると、薬剤の処理層ができずに草が生えることにつながります。

砕土が粗いと…

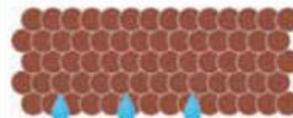
効果ムラが生じます。



- 処理層が不均一(効果ムラ)
- 間隙(かんげき)から深層に水が流れる

砕土が細かいと…

薬剤のもつ残効期間がフルに発揮されます。



- 処理層が均一になりやすい
- 深層浸透を抑える

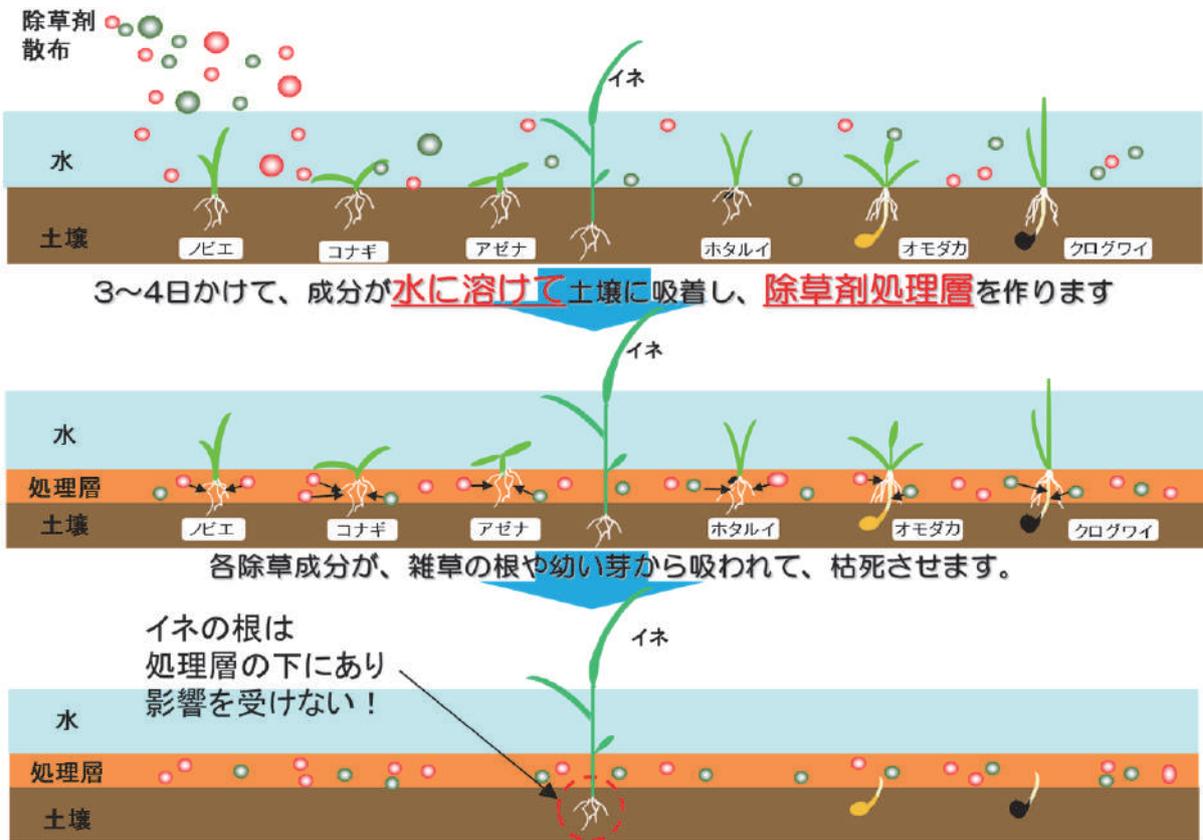
代かきは雑草を埋め込むだけではありません。代かきで田面が均一になると、除草剤の処理層も均一になります。また、代かきが丁寧だと水持ちがよくなるので除草剤の残効も期待できます。

丁寧な代かきは、均一で安定した処理層を作ります。

田んぼの均平化を心掛けましょう。

ポイント
2

除草剤が効く仕組み～うまく効果を出すために～



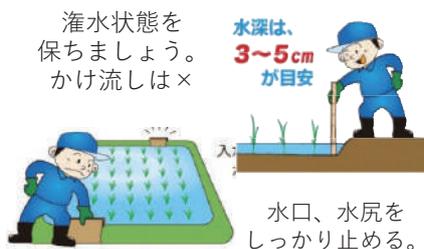
除草剤処理層をしっかりと作る為の水管理

- ①田植作業は、代掻きから3～5日後に行い、その後除草剤散布時期に応じて散布する。
- ②田植作業は丁寧にを行い薬害を出さないようにしましょう。
- ③除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- ④除草剤散布後3～4日間は水の出入りを止めて、湛水状態を保って下さい。
- ⑤散布後5日～7日程度は落水・かけ流しをしないで下さい。ただし、入水が必要な場合は静かに行いましょう。

田植作業は丁寧に、スピードを上げすぎず！



7日間は落水しない！



入水が必要な際は静かに！

水を足す際の水流で、せっかくの処理層が壊れてしまうことが。



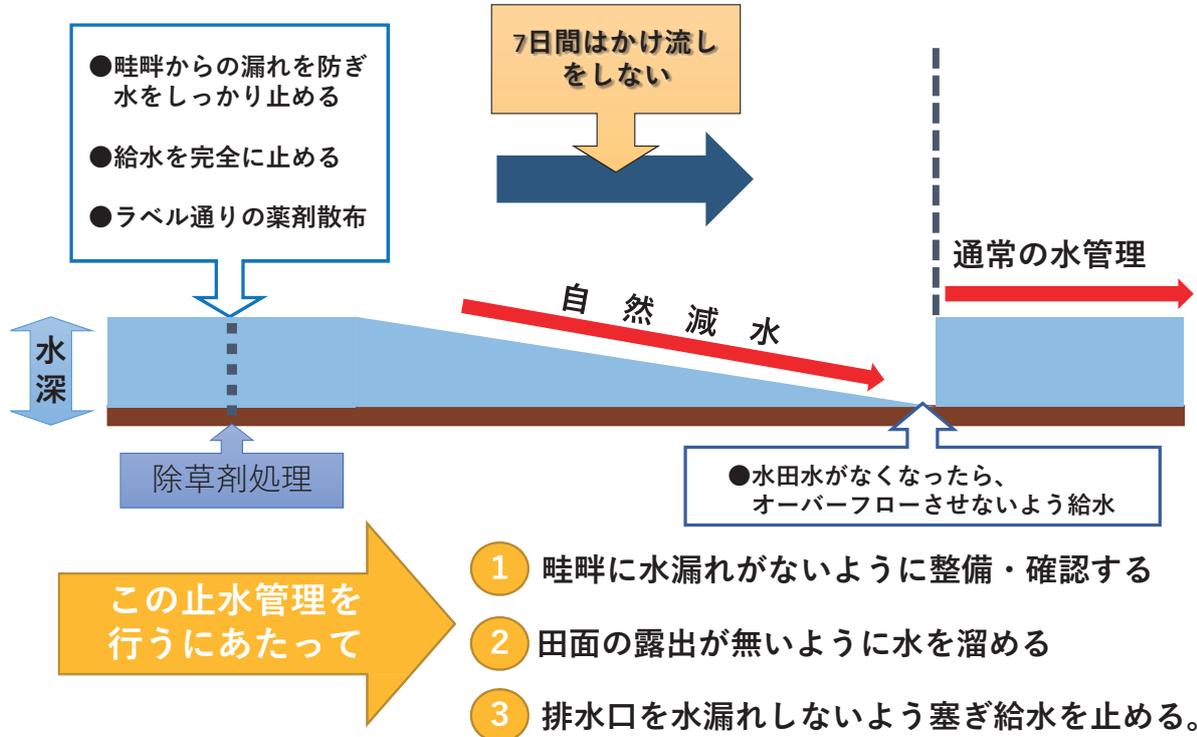
水口に緩衝物を置いて水流を軽減

提案

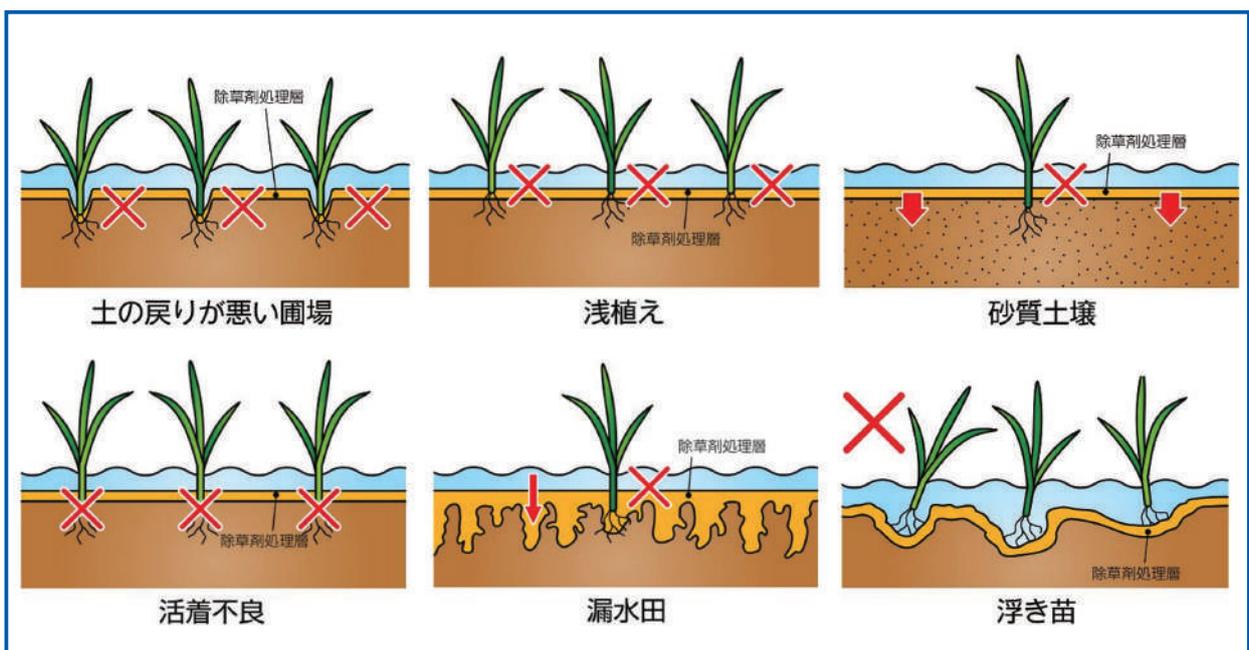
除草剤散布後の止水管理（水田の水が無くなるまで給水しない）

除草剤を処理した後7日間は水田の水が外に出ないように排水口を止め、水田の水が無くなるまでの間は給水も止める方法です。

●止水管理の模式図



以下のような圃場条件では処理層に稲の根が触れやすいため、**水稲に影響が出る場合があります**

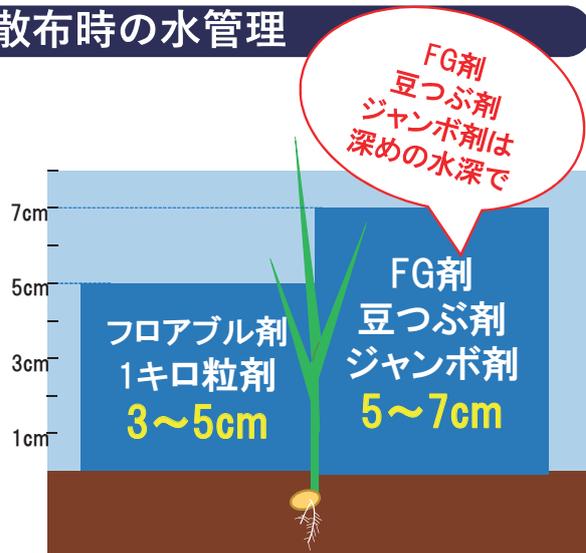


ポイント
3

薬剤の散布前にはしっかり水を入れましょう

除草剤散布前～散布時の水管理

- ①除草剤散布前に田面が露出しないようにたっぷり水を湛水しましょう。
- ②畦畔からの水漏れをチェックしましょう。
- ③散布前にもう一度、水口・水尻をチェックしましょう。
- ④減水深が2cm/日以上以上の漏水田では除草剤効果が落ちます。



ポイント
4

あぜの管理で漏水防止！

水田の水が外に流れ出ると、除草剤の効果も低下します。あぜはモグラ等の穴や崩れがないようにしっかり整備し、あぜ波等を使用して漏水を防ぎましょう。



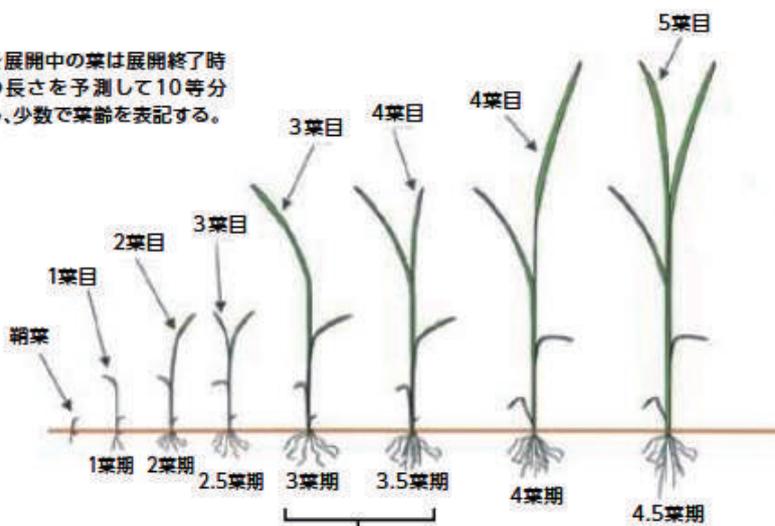
ポイント
5

除草体系を見直してみましょう！

春先の急激な気温変化で雑草の発生が早まったり、ダラダラと発生する傾向にあります。長期発生する雑草にお困りの方は、下記を参考に除草体系を見直してみましょう。

	植代後	田植7日前	田植直後	5日後	10日後	15日後	20日後	25日後
初期剤使用体系	初期剤		除草剤使用不可	→ 初中期一発剤				
				初期剤	→ 初中期一発剤		中期剤	
一発処理体系			除草剤使用不可	→ 初中期一発剤				
				中後期剤、ヒエ専用剤は必要に応じて散布				

★展開中の葉は展開終了時の長さを予測して10等分し、少数で葉齢を表記する。



この頃には1葉は枯れ、消失していく

左記のように、ノビエの成長は非常に早いので注意が必要です。また、3葉以上になると1葉が枯れ始めるため、葉齢を間違えないようにしてください。

～「農薬」の省力散布についてご紹介～

FG剤



FG剤 (Floating Granule=浮遊粒剤) とは

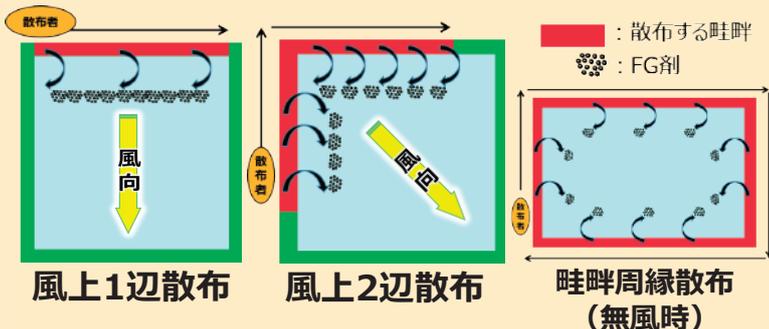
- ・ 水面に浮きながら速やかに自己拡散する製剤です。
- ・ 1ヘクタール規模の大規模圃場でも、畦畔からの散布で十分拡散します。



省力！風上畦畔散布

顔に風を感じる程度（風速2m/s以上）あれば、**風上側畦畔からの散布**ですらに省力的です！

FG剤の
使い方紹介動画は
こちら



- ★ 風下からの散布は避けてください。
- ★ 水田内で最も浅い箇所でも水位を4～5cm以上確保してください。

FG剤のラインナップ

アップレZ400FG
 ジェイフレンド400FG
 アシュラ400FG

豆つぶ剤



は楽々散布可能！！

豆つぶ剤の特徴

- 豆つぶが水面を浮遊しながら、自己拡散します。拡散性が非常に良いため、均一散布の必要がありません。田んぼに入らず畦畔からの散布が可能です。
- 10aあたりの使用量が極めて軽く、持ち運びが楽な製剤です。
- 粒径約3～8mmなのでドリフトの心配が軽減されます。

豆つぶ剤のいろいろな撒き方

手撒き散布



豆つぶを手ですくい取り、投げ入れるだけで簡単に散布ができます。

ドローン散布



無人航空機(ドローン・ラジヘリ)散布も可能です。対応機種についてはお問い合わせください。

ひしゃく散布



ひしゃく<利用>で手撒き散布に比べ遠くに飛ばせます。<到達距離>
手 : 約10m
ひしゃく : 約15m

豆つぶ使用の注意事項

散布の際は、やや深めの湛水状態(5～6cm)にして水の出入りを止めてください。

藻類・表層はく離・浮草が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり効果不足を生じる恐れがありますので発生前までに使用してください。

豆つぶ剤のラインナップ

スタークル豆つぶ
 アトリ豆つぶ250
 ヒエクリーン豆つぶ250

生 育

<p>生 育 経 過</p>				
<p>生 育 期</p>	<p>(準備)</p>	<p>育苗期</p>	<p>活着期・有効分けつ期</p>	
	<p>播 種</p>	<p>田 植</p>	<p>有分終 げ止 効つ期</p>	
<p>ヒメノモチ・峰の雪もち・五百万石</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>佐 香 錦</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>コシヒカリ・ココノエモチ・つや姫</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>き ぬ む す め</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>ミ コ ト モ チ</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>改 良 雄 町</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>縁 の 舞</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>つ き あ か り</p>	<p>4.14</p>	<p>5.8</p>		
<p>水 管 理</p>				
<p>作 業 管 理</p>	<p>育苗箱消毒 種子消毒</p>	<p>播 種</p>	<p>箱 施 薬 田 植</p>	<p>作溝の実施 中干し (5~7日間) (1~2回)</p>
<p>基 幹 防 除</p>	<p>バカ苗・いもち病</p>	<p>ムレ苗 苗立枯病</p>	<p>いもち病 イネドロオイムシ イネミズウムシ</p>	<p>一年生及び 多年生雑草</p>

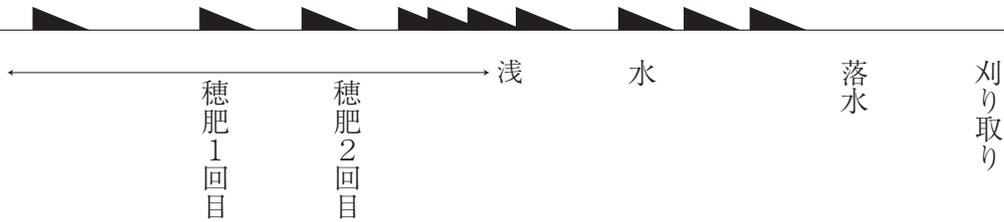
過 程

25本

無効分げつ期

無効分げつ期		穂ばらみ期		乳熟期・糊熟期・黄熟期・完熟期		
最分 げつ 高期	幼形 成 穂期	減裂 数初 分期	減分 裂 数期	出 穂 期	穂 揃 期	成 熟 期
	6.28	7.13	7.20			8.30
	7.1	7.16	7.26			9.4
	7.6	7.21	8.1			9.5
	7.17	8.1	8.11			9.24
	7.21	8.1	8.15			9.20
	7.21	8.1	8.15			9.25
	7.18	7.30	8.12			9.25
	7.1	7.16	7.26			9.1

飽水管理



穂肥1回目：幼穂形成期
穂肥2回目：減数分裂期
中干し：有効分げつ終止
期から穂首分化期の間

葉いもち 紋枯病 稲こうじ病

(穂ばらみ期) (出穂期) (穂揃期)

い紋ウ イネ 穂ウカ
も枯ン ネカ いンメ
ち病カ カメ もカム
病 ムシ ちシ

水稻栽培施肥設計

コシヒカリ【標高300m以下】 5月上旬移植

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥			成分量			摘要
					1回目		2回目	窒素	燐酸	加里	
					-25日	-18日	-10日				
全層施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスビタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	23	23					2.7	4.1		3.2
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐	10	10						3.5		
	※ホスビタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	15			15			2.2	0.6		2.2
	おてがるくんNK(液肥)	15				15		2.2			0.9
	成分合計							4.9~5.0	9.3~11.4		10.3~11.7
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスビタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	33	33					4.9	4.9		4.9
	※ホスビタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							4.9	7.1~9.1		15.1
粒状肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスビタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	25	25					2.0	6.0		2.0
	※ホスビタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	15			15			2.2	0.6		2.2
	おてがるくんNK(液肥)	15				15		2.2			0.9
成分合計							4.2~4.3	8.2~9.8	9.1~10.5		
側条施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスビタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	18	18					2.1	2.1		2.1
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐	10	10						3.5		
	※ホスビタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	15			15			2.2	0.6		2.2
	おてがるくんNK(液肥)	15				15		2.2			0.9
成分合計							4.3~4.4	7.3~9.4	9.2~10.6		
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスビタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	28	28					4.2	4.2		4.2
	※ホスビタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							4.2	6.4~8.4		14.4

コシヒカリ【標高300m以下】 5月下旬移植

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要
					1 回目		2 回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日	-10日				
全層施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	15	15					1.8	2.7		
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐										
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20					1.0			
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	16			16			2.4	0.6		2.4
	おてがるくんNK(液肥)										
	成分合計							4.1~ 4.2	7.9~ 10.0		9.2~ 10.7
基肥一発施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	28	28					4.2	4.2		
	※ホスピタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計							4.2	6.4~ 8.4		14.4
粒状肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	18	18					1.4	4.3		
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	16			16			2.4	0.6		2.4
	おてがるくんNK(液肥)										
成分合計							3.7~ 3.8	6.5~ 8.1	8.5~ 10.0		
側条施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	12	12					1.4	1.4		
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐										
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	16			16			2.4	0.6		2.4
	おてがるくんNK(液肥)										
成分合計							3.7~ 3.8	6.6~ 8.7	8.5~ 10.0		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	23	23					3.4	3.4		
	※ホスピタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計							3.4	5.6~ 7.6		13.6

コシヒカリ【標高300m以上】 5月上旬移植

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要
					1 回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日					
全層施肥体系	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	28	28					3.3	5.0		3.9
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐										
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	16				9	7	2.7			2.7
	穂肥34号	18			18			2.7	0.7		2.7
	おてがるくんNK(液肥)	18			18			2.7			1.0
	成分合計							6.0	10.2~12.4		11.1~12.8
基肥 一発施肥肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	40	40					6.0	6.0		6.0
	※ホスピタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							6.0	8.2~10.2		16.2
粒状肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	30	30					2.4	7.2		2.4
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	15			15			2.2	0.6		2.2
	おてがるくんNK(液肥)	15			15			2.2			0.9
成分合計							4.6~4.7	9.4~11.0	9.5~10.9		
側条施肥体系 ペー スト肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオバースト1号	20	20					2.4	2.4		2.4
	リンスター30	10	10						3.0		
	苦土重焼燐										
	※ホスピタ(摘要参照)	20	20						1.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	14				8	6	2.3			2.3
	穂肥34号	15			15			2.2	0.6		2.2
	おてがるくんNK(液肥)	15			15			2.2			0.9
成分合計							4.6~4.7	7.6~9.7	9.5~10.9		
基肥 一発施肥肥料	田んぼの守	75	75					2.2	2.2	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ※ホスピタは、初期成育の莖数を確保するため基肥で施用するか、根張りを良くするため中間追肥で施用する	
	セラコートRワン	32	32					4.8	4.8		4.8
	※ホスピタ(摘要参照)	40	40						2.0		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							4.8	7.0~9.0		15.0

コシヒカリ【省力施肥】

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て表記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥			成分量			摘 要
					1回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日	-10日				
省力施肥	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	
	けい酸加里入りこめ太郎くん	40	40					2.4	6.0	3.2	
	けい酸加里入りこめ次郎くん	30				30		2.4	0.9	2.4	
	成分合計							4.8	8.7	7.4	

つきあかり

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て表記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	元肥	中間追肥	穂肥			成分量			摘 要
					1回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-20日	-10日				
全層施肥体系	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場では不向きです。水口から流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい
	化成肥料12-18-14	34	34					4.0	6.1	4.7	
	けい酸加里プレミア34	20		20						4.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	20			12	8	3.4			3.4	
	おてがるくんNK(液肥) }	22			22		3.3				
	成分合計							7.3~7.4	7.9	10.5~13.9	
基肥一発施肥肥料①	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する
	GO一発821	45	45					8.1	5.4	4.9	
	けい酸加里プレミア34	40	40							8.0	
	成分合計							8.1	7.2	14.7	
基肥一発施肥肥料②	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	
	極早生専用442	34	34					8.1	4.7	4.0	
	けい酸加里プレミア34	40	40							8.0	
	成分合計							8.1	6.5	13.8	
側条施肥体系	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場では不向きです。水口から流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい
	化成肥料12-18-14	32	32					3.8	5.7	4.4	
	けい酸加里プレミア34	20		20						4.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	20			12	8	3.4			3.4	
	おてがるくんNK(液肥) }	22			22		3.3				
	成分合計							7.1~7.2	7.5	10.2~13.6	
基肥一発施肥肥料①	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する
	GO一発821	40	40					7.2	7.8	4.4	
	けい酸加里プレミア34	40	40							8.0	
	成分合計							7.2	9.6	14.2	
基肥一発施肥肥料②	田んぼの守	60	60						1.8	1.8	
	極早生専用442	32	32					7.6	4.4	3.8	
	けい酸加里プレミア34	40	40							8.0	
	成分合計							7.6	6.2	13.6	

※つきあかりの作付を希望される方は、各営農センター及び中央営農課へご相談下さい。

きぬむすめ

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要
					1 回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-20日					
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい 	
	化成肥料12-18-14	40	40					4.8	7.2		5.6
	リンスター30	} 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐		10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	} 選択	30			15	15	5.1			5.1
	おてがるくんNK(液肥)		34			34		5.1			2.0
成分合計							9.9	12.0~12.5	13.4~16.5		
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則、穂肥は施用しない ・ けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ・ 茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する 	
	水稻一発中晩生用	45	45					9.9	5.4		5.8
	リンスター30	} 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐		10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							9.9	10.2~10.7		15.6
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい 	
	化成肥料12-18-14	30	30					3.6	5.4		4.2
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	} 選択	30			15	15	5.1			5.1
	穂肥34号		25		25			3.8	1.0		3.8
	おてがるくんNK(液肥)	34			34		5.1		2.0		
	成分合計							7.4~8.7	7.2~8.2		12.0~15.1
ペーペースト肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい 	
	ネオペースト1号	25	25					3.0	3.0		3.0
	リンスター30	} 選択	20	20					6.0		
	苦土重焼燐		20	20					7.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17	} 選択	30			15	15	5.1			5.1
	おてがるくんNK(液肥)		34			34		5.1			2.0
成分合計							8.1	10.8~11.8	10.8~13.9		
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則、穂肥は施用しない ・ けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する ・ 茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する 	
	水稻一発中晩生用	40	40					8.8	4.8		5.2
	リンスター30	} 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐		10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計							8.8	9.6~10.1		15.0

ヒメノモチ

(kg/10a) 分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥			成分量			摘 要
					1回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日	-10日				
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	38	38				4.5	6.8	5.3		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
成分合計						8.7	11.6~12.1	12.7~15.3			
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	極早生専用442	37	37				8.9	5.1	4.4		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計						8.9	9.9~10.4	14.2		
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・窒素確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	24	24				2.8	4.3	3.3		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	穂肥34号 } 選択	24			24		3.6	1.0	3.6		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
成分合計						6.4~7.0	6.1~7.1	10.7~13.3			
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・窒素確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	23	23				2.8	2.8	2.8		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
成分合計						7.0	7.6~8.1	10.2~12.8			
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	極早生専用442	28	28				6.7	3.9	3.4		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計						6.7	8.7~9.2	13.2		

ココノエモチ

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要
					1 回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日					
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	45	45				5.4	8.1	6.3		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
成分合計						9.6	12.9~13.4	13.7~16.3			
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で20kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	早生い〜ね755	45	45				7.6	6.8	6.8		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20	20						4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	15			15		2.5		2.5		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	16			16		2.4		0.9		
成分合計						10.0~10.1	11.6~12.1	13.5~15.1			
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	24	24				3.8	4.3	3.3		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	穂肥34号 } 選択	28			28		4.2	1.1	4.2		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
	成分合計						7.0	6.1~7.2	10.7~13.3		
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	32	32				3.8	3.8	3.8		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6		
成分合計						8.0	8.6~9.1	11.2~13.8			
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で20kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	早生い〜ね755	37	37				6.3	5.6	5.6		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20	20						4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	12			12		2.0		2.0		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	14			14		2.1		0.8		
成分合計						8.3~8.4	10.4~10.9	12.2~13.4			

ミコトモチ

(kg/10a) 分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥		成分量			摘 要
					1回目	2回目	窒素	リン酸	加理	
					-25日	-15日				
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい
	化成肥料12-18-14	48	48					5.7	8.6	
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2	
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6	
成分合計						9.9	13.4~13.9	13.7~16.3		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する
	水稻一発中晩生用	45	45					9.9	5.4	
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0	
	成分合計						9.9	10.2~10.7	15.6	
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・莖数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい
	化成肥料12-18-14	34	34					4.0	6.1	
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	23			13	10	3.9		3.9	
	穂肥34号 } 選択	25			25		3.8	1.0	3.8	
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	26			26		3.9		1.5	
成分合計						7.8~7.9	7.9~8.9	12.0~14.4		
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・莖数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい
	ネオペースト1号	30	30					3.6	3.6	
	リンスター30 } 選択	20	20					6.0		
	苦土重焼燐 } 選択	20	20					7.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2		4.2	
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2		1.6	
成分合計						7.8	11.4~12.4	11.0~13.6		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する
	水稻一発中晩生用	36	36					7.9	4.3	
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0		
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5		
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0	
	成分合計						7.9	9.1~9.6	14.4	

峰の雪もち

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要	
					1回目	2回目	3回目	窒素	リン酸	加里		
					-30日	-18日	-10日					
側条施肥体系	粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
		化成肥料12-18-14	40	40					4.8	7.2		5.6
		けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
		化成肥料17-0-17 } 選択	34			12	12	10	5.7			5.7
		おてがるくんNK(液肥) } 選択	38			20		18	5.7			2.2
		成分合計							10.5	9.0		13.6~17.1
	ペースト肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
		化成肥料12-18-14	20	20					2.4			
		ネオペースト1号	20	20					2.4	2.4		2.4
		リンスター30 } 選択	20	20						6.0		
		苦土重焼燐 } 選択	20	20						7.0		
		けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
		化成肥料17-0-17 } 選択	34			12	12	10	5.7			5.7
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	38			20		18	5.7		2.2		
	成分合計							10.5	10.2~11.2	10.4~13.9		
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい		
	極早生専用442	33	33					7.9	4.6		4.0	
	リンスター30 } 選択	10	10						3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10						3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0	
	化成肥料17-0-17 } 選択	20			10		10	3.4			3.4	
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	23			13		10	3.4			1.3	
成分合計							11.3	9.4~9.9	15.1~17.2			

五百万石

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥			成分量			摘 要
					1回目		2回目	窒素	リン酸	加理	
					-25日	-18日					
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	36	36				4.3	6.4	5.0		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	17				10	7	2.9	2.9		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
成分合計							7.2~ 7.3	11.2~ 11.7	12.0~ 13.7		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	極早生専用442	32	32				7.7	4.5	3.8		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計							7.7	9.3~ 9.8		13.6
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・窒素確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	38	38				3.0	9.1	3.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	18				10	8	3.0	3.0		
	穂肥34号 } 選択	20			20			3.0	0.8		3.0
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
成分合計							6.0	10.9~ 11.7	10.0~ 11.8		
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・窒素確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	25	25				3.0	3.0	3.0		
	リンスター30 } 選択	20	20					6.0			
	苦土重焼燐 } 選択	20	20					7.0			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	17				10	7	2.9	2.9		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
成分合計							5.9~ 6.0	10.8~ 11.8	10.0~ 11.7		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	極早生専用442	25	25				6.0	3.5	3.0		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計							6.0	8.3~ 8.8		12.8

佐香錦

(kg/10a) 成分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂 肥			成分量			摘 要
					1 回目		2回目	窒素	リン酸	加里	
					-25日	-18日					
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	36	36				4.3	6.4	5.0		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	17				10	7	2.9	2.9		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
成分合計							7.2~7.3	11.2~11.7	12.0~13.7		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で20kg施用する	
	早生い〜ね755	45	45				7.7	6.8	6.8		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20	20						4.0		
	成分合計							7.7	11.6~12.1		12.6
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	38	38				3.0	9.1	3.0		
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	18				10	8	3.0	3.0		
	穂肥34号 } 選択	20			20			3.0	0.8		3.0
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
	成分合計							6.0	10.9~11.7		10.0~11.8
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	25	25				3.0	3.0	3.0		
	リンスター30 } 選択	20	20					6.0			
	苦土重焼燐 } 選択	20	20					7.0			
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0		
	化成肥料17-0-17 } 選択	17				10	7	2.9	2.9		
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	20				20		3.0	1.2		
成分合計							5.9~6.0	10.8~11.8	10.0~11.7		
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で20kg施用する	
	早生い〜ね755	36	36				6.1	5.4	5.4		
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40						8.0		
	成分合計							6.1	10.2~10.7		15.2

改良雄町

(kg/10a) 分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥		成分量			摘 要	
					1回目	2回目	窒素	リン酸	加理		
					-25日	-15日					
全層施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	化成肥料12-18-14	36	36					4.3	6.4		5.0
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17 } 選択	23			13	10	3.9				3.9
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	26			26		3.9				1.5
成分合計						8.2	11.2~11.7	12.3~14.7			
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	水稻一発中晩生用	37	37					8.1	4.4		4.8
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計						8.1	9.2~9.7	14.6		
粒状肥料	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	固形40号	30	30					2.4	7.2		2.4
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17 } 選択	23			13	10	3.9				3.9
	穂肥34号 } 選択	25			25		3.8	1.0			3.8
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	26			26		3.9				1.5
成分合計						6.2~6.3	9.0~10.0	9.7~12.1			
側条施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい	
	ネオペースト1号	20	20					2.4	2.4		2.4
	リンスター30 } 選択	20	20					6.0			
	苦土重焼燐 } 選択	20	20					7.0			
	けい酸加里プレミア34	20		20							4.0
	化成肥料17-0-17 } 選択	25			15	10	4.2				4.2
	おてがるくんNK(液肥) } 選択	28			28		4.2				1.6
成分合計						6.6	10.2~11.2	9.8~12.4			
基肥一発施肥体系	田んぼの守	60	60					1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する	
	水稻一発中晩生用	30	30					6.6	3.6		3.9
	リンスター30 } 選択	10	10					3.0			
	苦土重焼燐 } 選択	10	10					3.5			
	けい酸加里プレミア34	40	40								8.0
	成分合計						6.6	8.4~8.9	13.7		

緑の舞

(kg/10a) 分量は小数点第2位を切捨て標記

施肥体系	施肥時期 肥料名	総量	基肥	中間追肥	穂肥		成分量			摘要		
					1回目	2回目	窒素	リン酸	加理			
					-18日	-10日						
全層施肥体系	体系施肥肥料	田んぼの守	60	60				1.8	1.8	※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい		
	化成肥料12-18-14	25	25				3.0	4.5	3.5			
	} 選択	リンスター30	10	10				3.0				
		苦土重焼燐	10	10				3.5				
	けい酸加里プレミア34	20		20					4.0			
	} 選択	化成肥料17-0-17	18			10	8	3.0			3.0	
		おてがるくんNK(液肥)	20			20		3.0			1.2	
	成分合計						6.0	9.3~9.8	10.5~12.3			
	基肥一発施肥肥料	田んぼの守	60	60				1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する		
		水稻一発中晩生用	28	28				6.2	3.4		3.6	
		} 選択	リンスター30	10	10				3.0			
			苦土重焼燐	10	10				3.5			
けい酸加里プレミア34		40	40						8.0			
成分合計							6.2	8.2~8.7	13.4			
側条施肥体系	粒状肥料	田んぼの守	60	60				1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい		
		固形40号	25	25				2.0	6.0		2.0	
		けい酸加里プレミア34	20		20						4.0	
		} 選択	化成肥料17-0-17	15			8.5	6.5	2.5			2.5
			穂肥34号	17			17		2.5		0.7	2.5
		おてがるくんNK(液肥)	17			17		2.5			1.0	
	成分合計						4.5	8.5	8.8~10.3			
	ペースト肥料	田んぼの守	60	60				1.8	1.8	・茎数確保後、穂肥までに葉色が極端に落ちる場合は出穂40日前頃に化成肥料17-0-17を5kg施用する ※おてがるくんNKは変形圃場には不向きです。水口からの流し込みにより省力化が図れます。使用に際してご不明な点はお問い合わせ下さい		
		ネオペースト1号	17	17				2.0	2.0		2.0	
		} 選択	リンスター30	20	20				6.0			
			苦土重焼燐	20	20				7.0			
		けい酸加里プレミア34	20		20						4.0	
} 選択		化成肥料17-0-17	18			10	8	3.0			3.0	
		おてがるくんNK(液肥)	20			20		3.0			1.2	
成分合計						5.0	9.8~10.8	9.0~10.8				
基肥一発施肥肥料	田んぼの守	60	60				1.8	1.8	・原則、穂肥は施用しない ・けい酸加里は、中間追肥での施用ができない場合、基肥で40kg施用する			
	水稻一発中晩生用	22	22				4.8	2.6		2.8		
	} 選択	リンスター30	10	10				3.0				
		苦土重焼燐	10	10				3.5				
	けい酸加里プレミア34	40	40							8.0		
	成分合計						4.8	7.4~7.9		12.6		

島根県水稲主要品種特性データ

種類	早晚性	品種名	来歴	供試年次	試験場所	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	芒の多少・長さ	ふ先色	草型	穂発芽性	脱粒性	心白の多少	腹白の多少	玄米粒重	10a当り収量						諸抵抗性				適地	栽培適性	優点	欠点
																					全重	精米重	玄米重	葉いもち	穂いもち	白枯病	耐倒伏性	耐冷害性	耐病性	耐倒伏性				
主食用うるち	極早	つきあかり	FI(かばし)×北陸200号×北陸208号 [農研機構] (平成27年)	令1 ～ 令4 ¹⁾	出雲 出雲 赤名	4.02 4.16 4.16	4.27 5.07 5.11	7.16 7.22 7.29	8.17 8.24 9.03	75.5 76.2 71.0	20.3 19.7 18.9	378 309 334	黄 無 黄	偏 重 偏	難 難 や	難 難 や	難 難 無	無 中 無	中 中 中	691 562 638	1604 1320 1413	906 737 800	強 強 強	中 中 強	中 中 強	中 中 強	中 中 強	早期栽培	良食味、多収、穂発芽性強、耐冷害性強	腹白粒が発生しやすい、倒伏				
	極早	ハナエチゼン	越前129号×フクヒカリ [福井農試] (平成3年)	令1 ～ 令4 ¹⁾	出雲 出雲 赤名	4.02 4.16 4.16	4.27 5.07 5.11	7.13 7.19 7.26	8.13 8.18 8.28	77.9 77.3 73.7	18.4 18.8 17.1	511 441 482	稀 稀 短	偏 重 白	や 難 難	や 難 難	無 無 無	無 中 無	中 中 中	598 551 584	1458 1318 1445	809 747 757	や 中 強	や 中 強	や 中 強	や 中 強	早期栽培	良質、穂発芽や難、いもち強	食味					
	極早	コンヒカリ	農林22号×農林1号 [福井農試] (昭和31年)	平28 ～ 令2	出雲 赤名	4.17 4.16	5.08 5.10	7.27 8.01	8.28 9.12	84.1 82.3	19.9 19.4	382 418	稀 短	稀 白	中 中	難 難	難 難	無 無	無 無	537 644	1327 1480	713 825	弱 強	強 強	強 強	強 強	強 強	早期又は早植栽培、多肥栽培は避ける	良食味、多収、穂発芽難	いもち病弱、耐倒伏性弱、耐暑性やや劣る				
	極早	つや姫	山形70号×東北164号 [山形農総研] (平成21年)	平27 ～ 令2 ²⁾	出雲 赤名	4.17 4.16	5.07 5.09	7.27 8.02	8.27 9.12	72.5 69.8	18.5 18.7	377 436	稀 短	稀 白	中 中	や 難	や 難	微 無	無 無	527 632	1262 1431	682 790	や 強	中 強	中 強	中 強	中 強	早植栽培～普通早期栽培	良質、良食味、耐倒伏性強	心白粒がやや発生しやすい				
	早	きぬむすめ	キヌヒカリ×愛知92号(祭り晴) [九州沖縄農研C] (平成17年)	平28 ～ 令2	出雲 赤名	4.17 4.16	5.09 5.10	8.08 8.17	9.12 10.05	79.5 74.6	18.4 17.1	347 360	稀 短	稀 白	中 中	中 難	中 難	無 無	無 無	589 643	1568 1603	759 798	中 弱	中 弱	中 弱	中 弱	中 弱	早植～普通早期栽培	良食味、良質、多収	白葉枯病やや弱、耐冷害弱				
	極早	五百万石	菊水×新200号 [新潟農試] (昭和32年)	平28 ～ 令4	出雲 赤名	4.16 4.16	5.10 5.10	7.24 9.01	9.01 9.01	84.6 21.5	21.5	338	短 白	稀 黄	重 重	や 難	や 難	多 多	多 多	601 779	1341	779	や 弱	中 弱	中 弱	中 弱	中 弱	早期栽培	酒造好適米、早熟、多収、耐倒伏性強	耐冷性やや弱、低温発芽性劣る				
	極早	佐香錦	改良A反流×金紋錦 [島根農試] (平成12年)	平28 ～ 令4	出雲 赤名	4.16 4.16	5.10 5.10	7.28 9.08	9.08 9.08	86.0 21.5	21.5	346	無 白	黄 白	重 重	や 難	や 難	多 多	多 多	592	1458	789	や 弱	中 弱	中 弱	中 弱	中 弱	早期栽培	酒造好適米、早熟、多収、耐倒伏性強	いもち病やや弱、耐冷性やや弱				
	酒造好適米	神の舞	五百万石×美山錦 [島根農試] (平成8年)	平28 ～ 令4	出雲 赤名	4.16 4.16	5.10 5.10	7.25 9.05	9.05 9.05	88.2 21.2	21.2	307	無 白	黄 白	重 重	や 難	や 難	多 多	多 多	599	1331	777	や 弱	中 弱	中 弱	中 弱	中 弱	早期栽培	酒造好適米、多収、耐冷性強	倒伏やや弱、白葉枯病弱				
	早	縁の舞	山田錦×01-66 [島根農試] (平成29年)	平28 ～ 令4	出雲 赤名	4.16 4.16	5.10 5.10	7.25 9.24	9.24 9.24	88.9 20.8	20.8	300	稀 短	稀 白	重 重	や 難	や 難	多 多	多 多	570	1413	686	弱 強	中 強	中 強	中 強	中 強	早植栽培、多肥栽培は避ける	酒造好適米、多収、良質、大粒、穂発芽やや弱、耐冷性やや強	いもち病弱、耐倒伏性やや弱				
	中	改良雄町	比婆雄町×近畿33号 [島根農試赤名分場] (昭和35年)	平28 ～ 令4	出雲 赤名	4.16 4.16	5.10 5.10	7.25 9.24	9.24 9.24	88.2 20.9	20.9	355	中 白	中 白	重 重	や 難	や 難	多 多	多 多	493	1371	658	弱 強	中 強	中 強	中 強	中 強	早植栽培、多肥栽培は避ける	酒造好適米、良質	耐倒伏性やや弱、穂発芽性やや弱				
極早	ココノエモチ	中部26号×稲系糯108 [愛知山間実験農場] (昭和63年)	平27 ～ 令2 ³⁾	出雲 赤名	4.17 4.15	5.08 5.07	7.25 8.04	8.25 9.09	74.2 69.0	19.3 18.9	379 322	稀 短	稀 褐	偏 重	難 難	難 難	難 難	難 難	483	1278	658	中 強	中 強	中 強	中 強	中 強	早期栽培	餅質良、多収、穂発芽難	紋枯病弱					
早	ミコトモチ	山陰糯83号×中部糯57号 [島根農試C] (平成19年)	平27 ～ 令2 ²⁾	出雲 赤名	4.17 4.17	5.08 5.10	8.10 8.10	9.17 9.17	84.6 19.8	19.8	387	中 中	中 中	中 中	中 中	中 中	中 中	中 中	中 中	520	1528	668	弱 強	中 強	中 強	中 強	中 強	早植栽培	餅の外観及び食味良好、多収	寒いもちや弱、胸切米発生しやすい				

注1) つきあかり及びハナエチゼンの上段は出雲4月下旬移植(N10kg/10a)、中段は出雲5月上旬移植(N8kg/10a)、下段は赤名5月上旬移植(N8kg/10a)のデータ。

2) 出雲の「つや姫」および「ミコトモチ」は平成29年を除く平27～令2のデータ。

3) 赤名の「ココノエモチ」は平18～22のデータ。

4) 玄米千粒重及び玄米重は、主食用うるち及びももちが粒厚1.85mm以上、酒造好適米が粒厚2.0mm以上の水分15%換算値。ただし「つきあかり」は粒厚1.9mm以上。

病虫害防

防除時期	播種時	緑化期	田植え時		6月下旬		15日穂前
病害虫名	苗立枯病			葉いもち病	紋枯病	稲こうじ病	穂いもち病
基幹防除	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ナエファイナフロアブル</p>  <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">10052000倍希釈</p>	<p>稲名人箱粒剤</p> <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/ウンカ類/イナゴ類 フタオビコヤガ/いもち病</p> <p><使用時期> は種時(覆土前)～移植当日</p>  <p>稲大将箱粒剤</p> <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/ウンカ類/イナゴ類 フタオビコヤガ/いもち病/紋枯病</p> <p><使用時期> は種時(覆土前)～移植当日</p>  <p>フルスロトル箱粒剤</p> <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/ウンカ類/ いもち病/紋枯病</p> <p><使用時期> は種時(覆土前)～移植当日</p>  <p>デジタルミネクト箱粒剤</p> <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/イナゴ類/ いもち病</p> <p><使用時期> 移植3日前～移植当日</p>  <p>トリプルキック箱粒剤</p> <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/いもち病/ 紋枯病/稲こうじ病</p> <p><使用時期> 移植3日前～移植当日</p> 	<p>イナゴ ウンカ 対策剤</p> <p>イナゴ 紋枯病</p> <p>ウンカ 対策剤</p> <p>いもち病 対策剤</p> <p>稲こうじ 対策剤</p>	<p>液剤体系</p> <p>粉剤体系</p> <p>粒剤体系</p>	<p>モンカット フロアブル</p>  <p>1000～1500倍希釈 60～150L/10a</p>	<p>稲こうじ 対策剤</p> <p>稲こうじ病</p>  <p>モンガリット粒剤</p>  <p>3～4kg/10a 収穫30日前まで</p>	
	省力体系	<p>デジタルメガフレア箱粒剤</p>  <p><主な適用病害虫> 水稻初期害虫/ウンカ類/ カメムシ類/いもち病</p> <p><使用時期> 移植3日前～移植当日</p>					<p>モンガリット粒剤</p>  <p>3～4kg/10a 収穫30日前まで</p>

※近年稲こうじ病が多発しています。発生が見られた圃場は翌年も発生が予想されますので、適期の予防に努めましょう。

除体系

出穂前	出穂期	出穂後 10日後	乳熟期
<p>穂いもち病 紋枯病 ウンカ</p> <p>セジロウンカ</p> 	<p>枝梗いもち カメムシ ウンカ</p>	<p>カメムシ</p>	<p>カメムシ ウンカ</p>
<p>ブラシントレバリダ水和剤(選択)</p>  <p>500倍希釈し、 60~150L/10a いもち病・紋枯病やウンカ類</p>	<p>スタークル液剤10(選択)</p>  <p>1000倍希釈し、 60~150L/10a カメムシ・ウンカ類</p>	<p>ホソハリカメムシ</p> 	<p>スタークル液剤10</p> 
<p>アミスタートレボンSE(選択)</p>  <p>1000倍希釈し、60~150L/10a いもち病・紋枯病やカメムシ・ウンカ類</p>	<p>トライKフロアブル(選択)</p>  <p>1000倍希釈し、 60~150L/10a いもち病やカメムシ・ウンカ類</p>	<p>カメムシ吸汁による斑点米</p> 	<p>1000倍希釈し、 60~150L/10a カメムシ・ウンカ類</p>
<p>ブラシントレバリダ粉剤DL</p>  <p>3~4kg/10a いもち病・紋枯病やウンカ・ イナゴ・カメムシ類 ※カメムシ類は4kg/10a</p>	<p>ノンブラストレボン粉剤DL(選択)</p>  <p>3~4kg/10a いもち病や カメムシ類・ウンカ類 ※カメムシ類は4kg/10a</p>	<p>クモヘリカメムシ</p> 	<p>スタークル粉剤DL</p>  <p>3kg/10a カメムシ・ウンカ・イナゴ 類やフタオビコヤガ</p>
<p>イネカメムシ</p>	<p>ビームスタークル粉剤5DL(選択)</p>  <p>3~4kg/10a いもち病やカメムシ類・ ウンカ・イナゴ類</p>	<p>アカスジカスミカメ</p>	<p>シラホシカメムシ</p>
<p>枝梗いもち病</p>  	<p>スタークル 豆つぶ</p> 		<p>トゲシラホシカメムシ</p>
<p>デジタルメガフレアは穂揃期までカメムシの防除効果が持続します。但し、状況に応じて、防除が必要。</p>		<p>畦畔から投げ込める豆つぶ型の殺虫剤。水深を3 cm程度にしてから散布。 出穂7~10日後が散布適期。 250g/10a カメムシ類</p>	

除草剤散布適期

<初期剤>



成分数 1

ピラクロン

・フロアブル
 ・1キロ粒剤
 ○散布適期
 植代後～移植7日前または
 移植時～ノビエ1.5葉期
 (但し移植後30日まで)
 『移植後5日までの散布が効果的』
 ☆田植同時散布機で施用可



成分数 2

クミアイサキドリEW

・乳剤
 ○散布適期
 植代後～移植7日前または
 移植時～ノビエ1葉期
 (但し移植後30日まで)
 『移植後5日後までの散布が効果的』



成分数 2

先陣

・ジャンボ
 ・1キロ粒剤
 (田植同時散布機で施用可)
 ○散布適期
 植代後～移植7日前または
 移植直後～ノビエ1葉期
 (但し移植後30日まで)
 『藻類の発生予防に』

New!!

体系①

体系②

処理体系の選択

体系①(藻対策)

●先陣 + 初中期一発剤

体系②

●初期剤 + 初中期一発剤 + 中後期剤

体系③

●初中期一発剤 + 中後期剤

<初中期一発除草剤>



成分数 3

ジェイフレンド

・1キロ粒剤
 ☆田植同時散布機で施用可
 移植時～ノビエ3葉期
 (但し、移植後30日まで)
 ・ジャンボ・400FG
 移植後5日～ノビエ3葉期
 (但し、移植後30日前まで)



成分数 3

アツパレZ

・1キロ粒剤
 移植時～ノビエ3葉期
 (但し、移植後30日まで)
 (移植後5日からの使用を推奨)
 ・ジャンボ・400FG
 移植後3日～ノビエ3葉期
 (但し、移植後30日まで)



成分数 3

アシュラ

・1キロ粒剤
 移植時～ノビエ4葉期
 (但し、移植後30日まで)
 ・フロアブル
 移植時～ノビエ4葉期
 (但し、移植後30日まで)
 ・ジャンボ・400FG
 移植直後～ノビエ4葉期
 (但し、移植後30日まで)



成分数 3

クサウエポン

・1キロ粒剤
 ☆田植同時散布機で施用可
 移植時～ノビエ3.5葉期
 (但し、移植後30日まで)
 ・ジャンボ
 移植後1日～ノビエ3葉期
 (但し、移植後30日まで)

New!!

<中・後期剤>



成分数
2

オイカゼZ

New!!

・1キロ粒剤
☆田植同時散布機で施用可
移植時～ノビエ3葉期
(但し、収穫60日前まで)

・ジャンボ
移植後5日～ノビエ3葉期
(但し、収穫60日前まで)



成分数
3

カイレキZ

・1キロ粒剤
☆田植同時散布機で施用可
移植時～ノビエ3葉期
(但し、移植後30日まで)

・ジャンボ
移植後3日～ノビエ3葉期
(但し、移植後30日まで)



成分数
3

ディオレ

・1キロ粒剤
☆田植同時散布機で施用可
移植時～ノビエ3葉期
(但し、移植後30日まで)

・ジャンボ
移植後1日～ノビエ3葉期
(但し、移植後30日まで)



成分数
3

カウントダウン

・1キロ粒剤
☆田植同時散布機で施用可
移植時～ノビエ3.5葉期
(但し、移植後30日まで)

・ジャンボ
移植直後～ノビエ3.5葉期
(但し、移植後30日まで)



成分数
4

ソニックブームZ1キロ粒剤 ソニックブームSジャンボ

New!!

【ノビエ+広葉】
・1キロ粒剤・ジャンボ剤
移植後14日～ノビエ4葉期
(但し、収穫60日前まで)



成分数
3

ウィードコア

【ノビエ+広葉】
・1キロ粒剤
移植後7日～ノビエ4葉期
(但し、収穫60日前まで)



成分数
4

レブラス

【ノビエ+広葉】
・1キロ粒剤・ジャンボ剤
移植後14日～ノビエ4葉期
(但し、収穫60日前まで)

広葉雑草専用



成分数
2

バイスコープ1キロ粒剤

【広葉雑草のみ】
※湛水またはごく浅い湛水で散布
(1kg/10a)
移植後14日～60日
(但し収穫45日前まで)



成分数
2

アレルSC

【ノビエ+広葉】
移植後20日～ノビエ5葉期
(但し、収穫45日前まで)
※出穂始期15日前まで

ノビエ専用剤



成分数
1

トドメF

【ノビエのみ】
・1キロ粒剤
移植後14日～ノビエ5葉期
(但し、収穫50日前まで)
・乳剤
移植後14日～ノビエ7葉期
(但し、収穫50日前まで)
ノビエが発生してから散布



成分数
1

ヒエクリーン

【ノビエのみ】
・1キロ粒剤 ・豆つぶ250
移植後15日～ノビエ4葉期
(但し、収穫45日前まで)

体系②

体系③

初中期一発除草剤について

【雑草ごとのおすすめ防除体系】

●パターン1 毎年様々な雑草が生える圃場

初中期一発 → 中後期

◎田植同時可能



イホクサ



コナギ

●パターン2 ノビエを抑える特化型体系

初中期一発 → 中後期

◎田植同時可能



イヌビエ



タイヌビエ

●パターン3 クログワイやシズイなど難防除雑草対策体系

初中期一発 → 中後期

◎田植同時可能



クログワイ

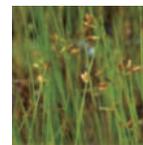


オモダカ

●パターン4 様々な雑草が生える省力化除草体系

初中期一発 → 中後期

畦畔から撒く省力タイプ → ジャンボ剤



シズイ



コナギ



クログワイ



オモダカ



ホタルイ

◆水田の主な雑草◆

	初中期一発剤	中後期剤
 <p>ヒエ</p>	<p>田んぼの最重要雑草。後発のヒエを抑えるには初期剤と一発剤の体系処理がおすすめ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カイリキZ ・ジェイフレンド ・オйкаゼZ ・アシュラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒエクリーン: 湛水散布(ヒエ専用剤) ・トドメ1キロ粒剤: 湛水散布(ヒエ専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>ホタルイ</p>	<p>1年生雑草。種子は10年～20年の寿命があると言われており、多量に種子が落ちると数年発生し続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カイリキZ ・オйкаゼZ ・アシュラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>オモダカ</p>	<p>多年生の難防除雑草。稲刈り跡のラウンドアップマックスロード散布で塊茎減少。長期間発生するため、初期剤+一発剤の体系処理がおすすめ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カイリキZ ・オйкаゼZ ・アシュラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>クログワイ</p>	<p>多年生の難防除雑草。稲刈り跡のラウンドアップマックスロード散布で塊茎減少。長期間発生するため、初期剤+一発剤の体系処理がおすすめ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アツパレZ ・アシュラ ・オйкаゼZ ・カイリキZ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>コナギ</p>	<p>1年生広葉雑草。草丈は低いですが養分を多く吸収するため稲への被害は大きい雑草。ハート形の葉が出る前に対策をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アツパレZ ・アシュラ ・オйкаゼZ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>クサネム</p>	<p>マメ科の1年生雑草。土が適度に湿った条件で発芽しやすい。丁寧な代かき等で水田を均平にし、水をきちんと保つことが大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デオール ・オйкаゼZ ・ジェイフレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)
 <p>イボクサ</p>	<p>難防除の1年生雑草。切断した茎からも再生するため代かき前の雑草や、発生の多い畦畔での除草が効果的(グラスショットがおすすめ！)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェイフレンド ・アシュラ ・オйкаゼZ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バيسコープ: 湛水またはごく湛水散布(広葉雑草専用剤) ・レプラス: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草) ・ソニックブーム: 湛水散布(ヒエ・広葉雑草)

稲作農家の皆さまへ

誤使用による事故が
毎年発生しています

水稲用除草剤を 育苗箱に散布しないよう注意しましょう

ご注意 育苗箱に誤って『除草剤』を
まけば苗は枯れてしまいます。



これらは除草剤です



育苗箱に散布する前にもう一度、 農薬のラベルを確認しましょう

⚠ 農薬使用にご注意ください! ⚠

テフリトリオン

▶テフリトリオンの総使用回数上限は**2回**となります。

※全ての農薬には有効成分が存在し、その有効成分には使用回数上限が設けられています。

(上限を越えた使用は登録外使用となり、農薬取締法違反になります)

使用する除草剤の使用回数上限や有効成分はラベル等で確認できます。

本紙に記載されている**テフリトリオン配合除草剤**はこちら

初中期剤



中後期剤



トリアファモン

▶トリアファモンの総使用回数上限は**2回**となります。使用圃場は、後作として**玉ねぎ,ナス,サヤエンドウ**の転作時には**薬害**が出ます。

稲作後の圃場でこれらを転作される方は**ご注意ください**。

本紙に記載されている**トリアファモン配合除草剤**はこちら

初中期剤



これらに限らず、農薬使用等の質問や相談がある方は

お気軽に最寄りの各営農経済センターまでお越しください!!

《近年、藻の発生が多くなって困っていませんか！？》



藻類対策

藻類が多く発生する圃場では…

- 風による吹き寄せによって生育初期の水稲に絡みついて**稲を倒す**
- 肥料養分の収奪等により**分けつを抑制**する
- 日光を遮ることで水田の水地温が低下し、水稲の**生育を遅延**させる



対策

『先陣ジャンボ、先陣1キロ粒剤』を散布すると、藻類の初期発生を抑えることができます。

藻の発生を抑制

チラシに先陣の上手な使い方を掲載

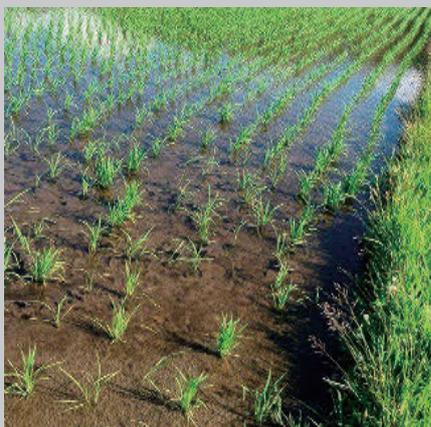


藻の発生前に散布

無処理圃場



『先陣』散布圃場



毎年、藻の発生に困っている方は『先陣ジャンボ、先陣1キロ粒剤』を散布しましょう！！

実際の試験圃場のようす

『先陣ジャンボ、先陣1キロ粒剤』で藻の発生の予防を行い、初中期剤の効果を高め、水稲栽培のトータルコスト削減を目指しましょう！！

《なぜ藻は発生するのか！？》

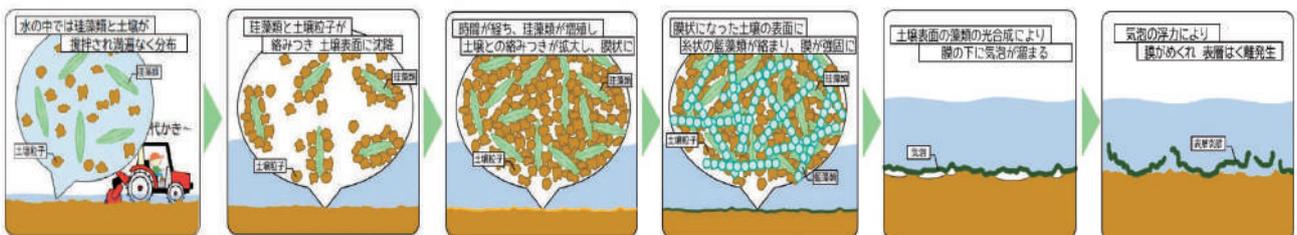
藻の発生条件

- ・ 地力が高い（堆肥等の有機物や窒素、リン酸が多い場合に多発）
- ・ 水温が生育に適している（水温20～30℃程度で増殖）
- ・ 日射量が多い（光合成により増加）

藻類は、元肥と稲ワラや堆肥等の有機物が微生物に分解されることで、窒素やリン酸が水田中で豊富となることによって発生します。また、その水中の養分と光合成によって増殖していきます。発生量が多いと水温・地温の低下や稲の押し倒し等の害を与え、稲の初期生育の抑制を受けてしまいます。さらに、藻類は表層剥離の要因にもなります。

表層剥離の条件

- ・ 水田中の未熟有機物の分解などにより硫化ガスなどの気体が発生しその浮力により作土の表層が剥離
- ・ 代かきで攪拌された土壌粒子に微量の藻類が混ざり、土壌粒子を凝集しさらに藻類の光合成による発生酸素の浮力により表層が剥離



※協友アグリ株提供資料参照

藻類は、イネが活着し分けつが始まり、水面への遮光や水温が30℃以上になれば、繁殖は抑制され、稲への影響はなくなります。その為、田植え～8月頃までの対策が必要です。

良質米を作るには、地力を十分な状態にする必要がありますが、その地力が原因となり藻は発生します。

藻の発生前に予防剤として『先陣』を散布することで、藻の発生を抑え、良質米の栽培を目指していきましょう！！

斑点米カメムシ防除絶対!!

斑点米カメムシ(イネカメムシは除く)
の適期防除っていつ??

穂揃期の3日後とその10日後
に防除します。

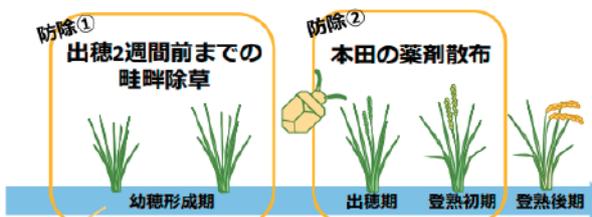
イネカメムシが雲南地区でも確認!!
山から直接稲めがけて飛んでくる。
畦畔からの侵入ではありません!!



適期防除は??
出穂期とその10日後に防除します。

適期の防除が大切です!

防除の適期についてはイネの品種、カメムシの種類や地域によって異なるため
最寄りの防除所が発表している情報を参考にしましょう。



本田内の雑草にも注意!
イヌホタルイヤシズイなどの
カヤツリグサ科の雑草は一部
カメムシの発生源となります

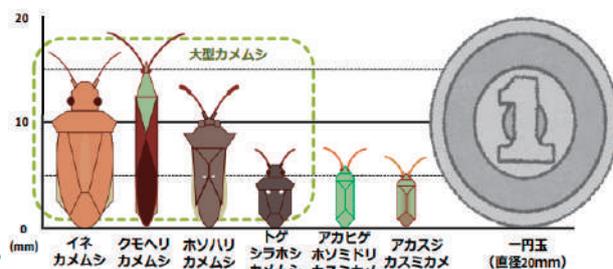


おすすめの本田散布剤(粒剤)



被害米

カメムシの被害は**収穫しないと目に見えません。**
大切なお米を守るために、**適期防除**を徹底しましょう!



○斑点米カメムシに登録のある主な本田散布剤一覧

薬剤	IRAC 番号	系 統	主な剤型			単剤における 使用時期 (収穫前日数)
			DL粉剤	液体製剤/ 水和剤/ 水溶剤	粒剤	
キラップ剤	2 B	フェニルピラゾール系	○	○	○	14日前まで
スタークル剤	4 A	ネオニコチノイド系	○	○	○	7日前まで

注1) 使用に当たっては、ラベルを必ずご確認ください。

注2) 収穫前日数は剤型によっても異なりますので、ラベルを必ずご確認ください。

RACコードに注意!!

全ての農薬にはRACコードが設定されています。
同じRACコードの農薬を繰り返し使うと
害虫や病原菌に抵抗性が!!
RACコードが違う農薬を交互に使うことで
害虫や病原菌に抵抗性が付きにくくなり
1つのRACコードを長く使用することができます!

斑点米カメムシ防除は出穂期と穂揃期の**2回散布**を徹底し、
地域での防除体制を高めることをお勧めします!

被害を受けてからでは遅い!

大切なお米を守るための防除を!!

《近年、水田周辺でイナゴの発生が目立つようになっていませんか！？》

イナゴ対策



ここで叩くのが効果的！

対策① 育苗箱施薬

稲名人箱粒剤か稲大将箱粒剤を育苗箱に処理すると圃場へのイナゴ侵入初期に効果を発揮します。



圃場内のイナゴの増加を抑え、被害を防ぎます

対策② 本田防除

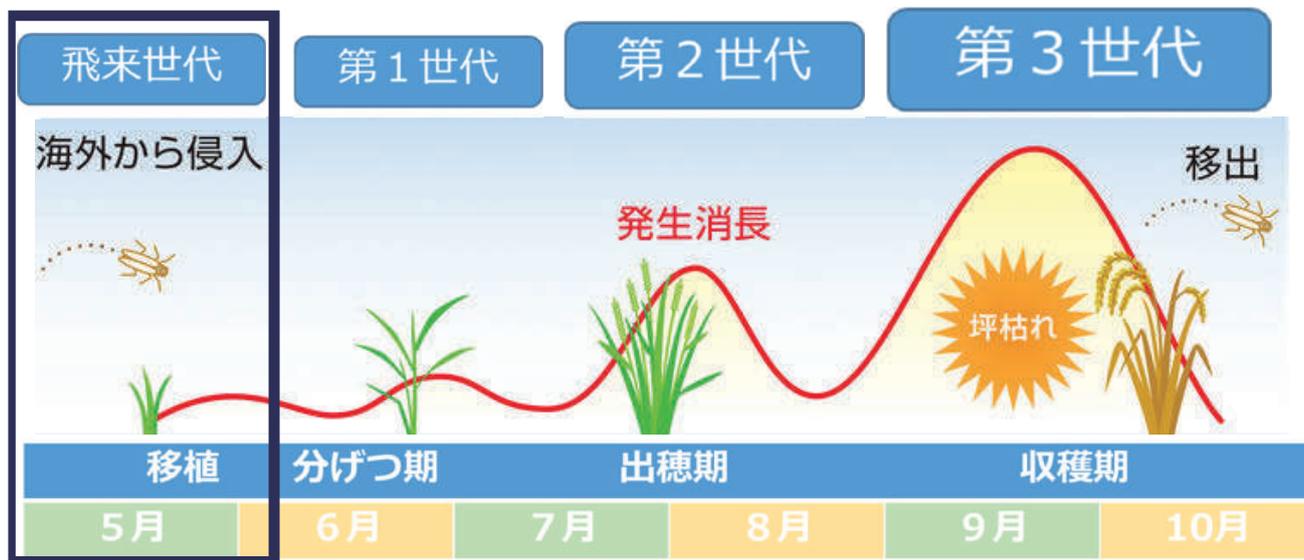


水稻生育時期にイナゴが発生した場合
トレボン粉剤DLを10aあたり3~4kg散布します。
発生初期(6月中旬~7月中旬)の散布が効果的です。
※液剤であればエクシードフロアブルが効果的です



《近年、ウンカの被害が多くなっています。対策はお済ですか??》

ウンカ対策



箱処理がおすすめ!

対策① 育苗箱施薬

「フルスロトル箱粒剤」を育苗箱に処理することで坪枯れを起こすウンカの増殖を防ぎます。

海外から飛来し、ほ場で世代交代を繰り返すたびに、頭数が増加し、坪枯れを引き起こします。特に9月下旬以降に収穫期を迎える品種、収穫が遅れたほ場などは発生について警戒が必要です。昨年も収穫が遅い品種で被害が見られています。



坪枯れの様子

対策② 本田防除

「スタークル液剤10」または「スタークル粉剤DL」をウンカが生息している株元を中心にしっかり散布する。



《近年、気温が高くなり追肥作業が辛くなっていませんか！？》

省力追肥



化成肥料17-0-17を流し込み施肥

- 水尻を完全にふさぎ17-0-17を網状の袋に移し替え水口に固定。
- 水口から灌漑水を入れ、入水開始と同時に17-0-17を一気に溶かす。
- 灌漑水が1日で5cm以上の水深となる量が必要。



おてがるくんNKを流し込み施肥

- 流入水が所定の水深になる時間を確認。
- 施肥前に水深1cm程度まで水を落とす。
- 吐出時間は流入時間に合わせて調節。
- 段ボール箱底面の空気抜き用ミシン目を抜き取り空気孔を確保し一定量流水する。



**適期に追肥を行い、
良食味米を目指しましょう！！**



作業機を装着したトラクタで公道走行が可能となりました！

道路運送車両法の基準緩和によって、一定条件を満たした状態に限り、トラクタに作業機（ロータリー・ハロー等、けん引式でないもの）を付けたままで公道を走行することが可能となりました。

公道走行にあたってのチェックポイント

① 免許の確認



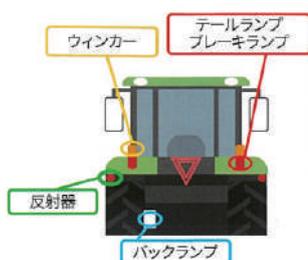
作業機を付けた状態で、全幅が1.7mを超える場合、大型特殊免許（農耕限定でも可）が必要になります。



② 灯火器類の確認



トラクタに付いている灯火器類が視認できる必要があります。



③ 安全性の確認



作業機を取り付けることで、トラクタの安全性が確保できるか確認する必要があります。



④ その他



条件により標識等の追加や道路管理者の特殊車両通行許可書を得るなど、基準を満たす必要があります。

水稻圃場におけるイノシシ対策について

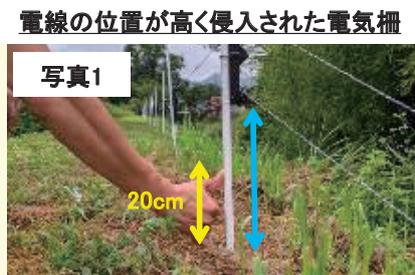
島根県東部農林水産振興センター 雲南事務所

イノシシを含む野生動物は、一日の大半をエサ探しに費やしています。そのため、田畑の作物は野生動物にとって、とても魅力的な食べ物です。

作物を守るためには、電気柵や広域柵(ワイヤーメッシュ)等の侵入防止柵が有効です。このページでは、設置する際のポイントなどをご紹介します。

電気柵

- 電気柵の高さは地面から20cm間隔を守る
※イノシシに侵入された圃場は、電線の高さが20cm以上になっています(写真1)。
- 電線に流れている電圧は4,000V以上を確保する
- 舗装道路(アスファルトなど)付近は路面から50cm以上離して設置する(写真2)



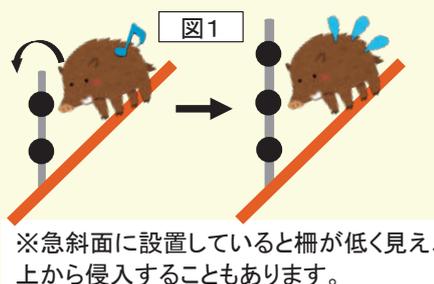
ワイヤーメッシュ柵

- メッシュなどで隙間を埋める(写真1)
- 下部を竹やパイプで留めて掘り起こしを防止する(写真2)



○柵を設置する際に注意すること

- イノシシは柵を跳び越えるより下から侵入することが多い(写真3)
着地に失敗して足を怪我するリスクが高くなるので、高さ40cmの電気柵であっても下から侵入しようとします。
傾斜地に設置する場合は、斜面から離して設置するか、傾斜地に対して垂直に設置しましょう。また、段数を追加することも有効です。
- 急斜面への設置は避ける やむを得ず設置する場合は、柵を高くするなどの工夫が必要です(図1)。
- 道路や河川沿いにも柵を設置する 3m程度の擁壁であっても、蹄がかかれば上ることができます。

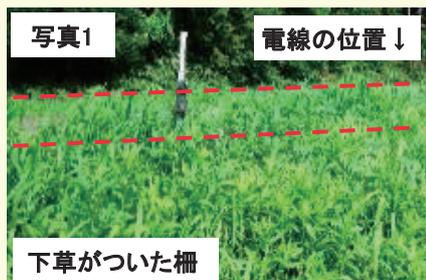


日常の維持管理の際に注意すること



電気柵

- 柵周辺の草管理
下草が電気柵にあたると漏電し、電気柵の電圧が低下します(写真1)
- 電圧が4,000V以上出ているか定期的な点検(写真2)
- 乾電池やバッテリーの残量チェック
イノシシが来たときに、いつも電気が流れていることが重要です。乾電池の場合、電池交換の目安は1ヶ月程度です。



ワイヤーメッシュ柵

- 柵周辺の草管理
藪に埋もれた柵の復旧は非常に大変ですので、電気柵同様、草の管理が必要です。
- 定期的な点検
倒木や雪により柵が破損することがあります。管理体制をつくって、少なくとも年に1回以上の見回り、修繕をしましょう。



侵入を確認した場合、柵の種類に関わらず、速やかに侵入場所付近の柵の点検・補修を行いましょう。侵入箇所を放置すると、圃場への警戒心が薄まり、被害が拡大する恐れがあります。

★よくある質問

『音、光、臭いは動物避けに効果があるのか』という質問をよく聞きますが、効果は一時的であり、これだけで被害を防ぐことは難しいです。(場合によっては、数十分で慣れてしまいます。)

野生動物は音や光が怖いのではなく、“昨日とはちがうものがある”ことに警戒しているだけで、そこが安全だとわかればすぐに慣れてしまいます。ピンクや青のテープを張る場合も同様です。また、これらのテープを張ると、見た目が電気柵と似ているため、テープを安全だと学習した動物が電気柵の線に触らなくなる恐れもあります。



コンバイン後方からの粃排出を少なくするためには？

漏生イネの発生源として、2番穂の結実以外に、刈取り時のロスも考えられます。

コンバインによる収穫では、脱穀と選別を圃場内で刈りながら行うため、どうしても選別しきれなかった一部の健全な粃が圃場内に排出されてしまいます。漏生イネ発生源を減らすだけでなく、実った粃の収穫ロスを減らす観点でも、下記の点に注意して刈り取り作業を実施するように心がけて下さい。

収穫ロスを減らす(低減)するために

コンバイン内部の脱穀・選別部が詰まり、選別能力を超えて刈り取りを進めると、後方のワラ排出部から、健全な粃が排出されてしまう！

じゃあ、どうすれば・・・？

ポイント1 濡れた状態で刈らない

- ・朝露や雨など、濡れた状態で刈ると、内部の選別部(図1)が詰まりやすくなります。
- ・選別部が詰まった状態で刈取りを続けると、選別能力が低下し、ワラ等と一緒に健全粃が後ろから排出されやすくなります。
- ・「濡れモード」等が搭載されている機種では、上記のような条件の時は必ず選択するようにしてください。



ポイント2 走行スピードを上げすぎない

- ・「走行スピードが速い＝選別部にも高負荷がかかる」ため、稲が濡れている等で選別能力が低くなりやすい条件の時には、スピードを落とすことが重要です。
- ・走行スピード(＝刈取り量)に対し選別能力が低下している状態がゲージ(図2)(メーター部に示される「シープ」等)に表示されている場合には、スピードを落として、選別が追いつくのを待ってください。
- ・上記のような条件の時、エンジンの回転数が落ちるとともに、刈取り量に対し選別能力が追いついていないことを示す警告音が鳴動する機能があります。その場合には、エンジン回転数が正常域に戻るまで、足をとめて(走行停止して刈取りをストップ)下さい。



ポイント3 整備・清掃をきちんと実施する

- ・コンバインの中を開けて、「受網」や「振動板」、「ストロラック」等、選別部のつまりをこまめに清掃してください。
- ・ワラの排出部の受板(図3)を上下に調整できる機種では、取付位置を高い方に調整した方が健全粃の排出が少なくなります。
- ・掃除口のフタが閉まっているのかの確認はもちろん、粃の流れる各部のパッキンが老化していないか等も確かめて下さい。



主な水稻基肥側条銘柄の嵩比重

対象銘柄	嵩比重
セラコートRワン	0.84
水稻一発中晩生	0.80
つや姫一発	0.73
12 - 18 - 14	0.83
固形肥料40号	0.95 ~ 1.00
すご稲有機355	0.78
早生い～ね755	0.87
極早生専用442	0.85

※「基肥一発肥料」は、樹脂でコーティングした肥料を配合しているため、一般の肥料に比べ粒径は大きく、嵩比重が小さくなっています。そのため側条施肥の場合、開度調整に注意が必要です。全量一括施肥という特性も踏まえ、必ず目盛りと実際の施肥量をチェックしてください。

農作業カレンダー



月別の作業を記載しておりますので参考にして良質米生産を目指しましょう！



3月

適正な種まきを行いましょう!!

うす撒き、計画的な播種による、過剰生育防止、乳白粒発生防止

※JAで消毒種子を購入した場合は不要です。

〔作業日程の例〕

3/26
4/6

比重選

- 水10ℓに硫安…うちの場合2.5kg
もちの場合 1.4kg

水洗

- 発芽障害を起こさぬよう、よく水洗いし、芽出し袋に詰める。芽出し袋（網袋）に7割程度入れる。

種子消毒

- モミガードC水和剤200倍

浸種

- 水温が違えば浸種期間も違います。

平均水温	10℃	13℃
目安浸種期間	10日間	7日間

- コシヒカリ積算温度目安 100℃
- きぬむすめ積算温度目安 70℃
- 給水不足は出芽ムラになるので注意

催芽

催芽適温	催芽の程度	日数
32℃	1.0mm(ハトムネ)	1～1.5日(24～36時間)

- 期間が長すぎると芽傷みが出やすい。

4/9

は種

種類	1箱当たり播種量(目安)	
	乾粉(浸種前)	乾燥させた催芽粉
稚苗	125g	150g～160g程度

※浸種前の種粉2.5kgで約20枚計算です。

4/9

4/11

出芽

- 出芽器内で目を伸ばし過ぎないように注意する。

出芽適温	日数	芽の長さ
30～32℃	2～2.5日	1cm程度

4/11

5/2

緑化/硬化

5/3

田植え



粉は袋に7分目に

育苗箱の消毒

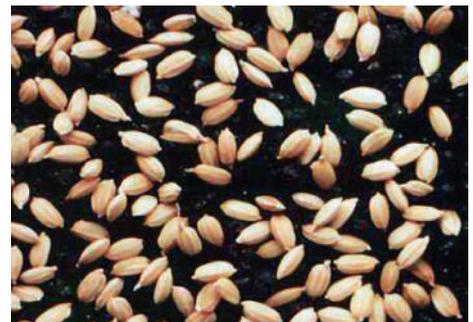
- イチバン500倍液

床土入れ

- 平らにならす。

灌水

- 灌水は1箱当たり800～1000mlとしやりすぎないようにする。



(乾燥させた催芽粉) 150g/箱

《農作業メモ》

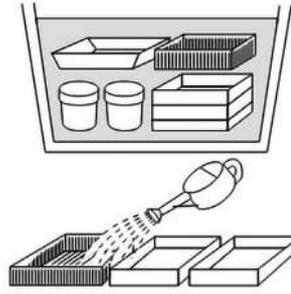
令和7年 3月

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	春分の日
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

◎育苗箱の消毒

イチバン
500倍希釈
水100ℓに薬剤を
200ml入れる

瞬間浸漬
液の中で箱をゆさぶる
ジョウロで散布



※水を捨てる際は、消石灰等で中和して捨てて下さい。
残液100ℓあたり消石灰をスコップ1杯分（3kg）を投入し数日間直射日光にさらしたのち危険のない場所へ処理

◎浸種のコツ

- 水温が低すぎても高すぎても発芽の揃いが悪くなる。
概ね最低水温10℃～最高水温15℃の範囲で浸種を行う。
※浸種を始めて24時間以内に10℃未満の低水温に浸けると発芽率、発芽勢が低下する。
- 浸種する場所は外気が直接当たらない作業場など屋内で行う。
- 消毒種子の場合は殺菌剤が吹付処理されているのでそのまま浸種する。
- 種籾と水の容積比は種籾1kgに対し水4ℓ以上を目安とする。
- 浸種開始後4日間程度は水の取り換えをしない。
(消毒種子の効力を高めるため)

◎催芽の状態

《80%以上ハトムネ状態に！》



催芽状態は必ず目で見て確認後、播種してください。

◎播種のコツ

- 播種機で播種する場合は、播種むらが出ないように手のひらに籾がつかない位まで乾燥させる。(乾燥させる場所は直射日光のあたらないところで陰干しする。)
- 床土に育苗用マット（商品名：こめパワーマット）を使用する場合は次の点に注意する。
 - ・裏表をよく確認する。(肥料面を上にする)
 - ・播種時にしっかり灌水する（1枚あたり2ℓが目安）
- ※育苗箱に育苗用マットを敷き、大きめの桶などに水を張りジャブ浸けにすると十分に灌水できる。マットでの失敗の多くが灌水不足!!

育苗苗の生育障害と対策

病害名	使用時期	薬剤名 (使用回数)	希釈倍率	使用液量	使用方法
苗立枯病 (ピシウム菌)	播種時～緑化期	ナエファインフロアブル	1000～ 2000倍希釈	育苗箱1箱当り0.5ℓ	土壌灌注
苗立枯病 (リゾーブス菌)	播種時		1000倍希釈	育苗箱1箱当り0.5ℓ	
苗立枯病 (フザリウム菌)			2000倍希釈	育苗箱1箱当り0.5ℓ～1ℓ	

4月

水と温度管理で健全苗!!

◎出芽のコツ

●育苗器を使用する場合

- ・温度が30℃～32℃になるよう温度計で確認する。
- ・適切な出芽の状態は覆土表面に芽が1cm程度伸びた状態です。伸ばしすぎに注意する。

●育苗ハウス内で被覆資材（太陽シート等）を使用し、ベタ並べで出芽させる場合

- ・床を平らにし、凹凸を極力なくす。
- ・低温が続く年は、出芽までに日数がかかることがある。（一週間以上）
- ・太陽シート被覆前はしっかり灌水する。（箱底からしみ出るまで均一に行う。）
- ・苗箱を並べる数日前よりハウスを密閉しておき地温を高めておく。

緑化期

◎保温が第一、苗の素質が決まる

- 1 灌水は覆土の持ち上がりがある場合のみ軽く行う。
また、種籾の見えるところは軽く覆土する。
- 2 出芽後の白い芽は、直射日光に当たると白化現象を起こすので、直ちに健苗シート等の遮光資材で被覆する。
- 3 育苗ハウス内が35℃を超えると、苗がヤケるので日中ビニールを開け換気を行う。
※ハウスビニールを更新した場合は特に注意する。
- 4 夜温が15℃を下回るときは、十分な被覆を行い保温に努める。
この時期に温度が下がり、保温が不十分の場合は極端に苗の軸が短くなる。
- 5 床土表面が白く乾いた場合、灌水する。
- 6 被覆資材をとる目安（緑化終了）は、葉が緑色になり、苗の長さが3cm程度になった時点とする。

緑化期	
昼間温度	20～25℃
夜間温度	15～20℃
※夜間の急激な低下に注意	

硬化期

◎きめ細やかな水・温度管理で丈夫な苗づくり

初・中期（本葉1.0～2.0葉期）

- 1 徒長防止のため、日中は高温に注意し、換気につとめる
- 2 夜間の温度が10℃以下になる場合は、被覆等を行い保温する。
- 3 土の乾き具合を見て、午前中に灌水する。雨天時の灌水は控える。
- 4 かびの早期発見・防除に努めること。

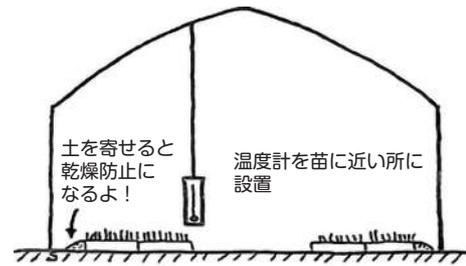
硬化初期	硬化中期	硬化後期
6日	6日	5日
昼間温度15～20℃ 夜間温度10～15℃ (夕方ハウスを閉める) 日中は換気		外気温にならず

後期（本葉2.0葉以降）

- 1 昼夜の温度差が大きいとムレ苗が出やすくなるので、日中の高温に注意し換気に努める。
- 2 水は1日に1～2回、たっぷりとかける。但し、夕方以降は行わない。
- 3 田植4～5日前からは極端な低温の恐れがない限り、夜間もビニールを開け外気に馴らし、硬い苗に仕上げる
- 4 苗の葉色低下が著しい場合、田植3～4日前に、弁当肥を与える。

《温度管理と被覆資材使用の目安》

ハウスを締めきったままにしておくと
室温が50℃程度まで上がるので
25℃以上にならないように換気する。



※太陽シート、健苗シートを使用する場合は、遮熱・保温性に優れているので、こまめなハウス内温度の管理が必要なく、被覆内を発芽・育苗適温に保つことができます。

育苗ハウス内に透水性のない資材を敷くとムレ苗の発生を助長します。
(有孔ポリ、防草シート、グラウンドシートなどを推奨します)

ステージ	緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期	注意事項	
日数	3～5日間	7日間	7日間	7日間	※育苗日数25～30日 ※25℃以上に上げない ※最低8℃以下に下げない ※低温時や霜が降る場合は被覆資材等での保温をする	
昼	温度	20℃～25℃	15～20℃	15～20℃		外気温
	被覆資材	○	△	×		×
夜	温度	15～20℃	10～15℃	10～15℃		外気温
	被覆資材	○	△	×		×

注) ○は常時必要、△は状況に応じて必要、×は不要

弁当肥の施用法 (希釈液の使用量は1箱あたり500ml)

肥料名	希釈倍率	希釈例
硫安	500倍	硫安20gを水10ℓに溶かす
トミー液肥(10-4-6)	200倍	トミー液肥50mlを水10ℓに薄める

※施用後は、軽く灌水し葉についた肥料を落とす

土づくり

- 秋に土づくり資材を施用できなかった圃場は必ず春に施用しましょう。
- 『稲づくりの基本は土づくりから!!』(P8ページ)に基づき、土づくりを行い稲体を強くしましょう。

荒 耕

- 15cm~18cmの深耕に努める。(深耕は根の伸びる範囲を広げ、養分の吸収をよくする)
- 均平は耕起前に高いところから低いところに土を運び、高低差を修正しましょう。

基肥施肥方法

- 全層施肥…耕起前に施肥し、土層全体に混和する方法。
注意点として基肥散布後、耕起、入水、代かきが10日以上に及ぶときは肥料の利用率が低下するため、基肥散布を入水、代かきの直前に行う。
- 側条施肥…側条施肥対応田植機を使用し、肥料が植え付け株の近くにすじ状に施肥される。
肥料の利用率が高く、初期生育を促進する。

基肥施用基準 (10a当たり)

- 側条施肥の場合

	品種	セラコートRワン	水稻一発中晩生	極早生専用442	早生い〜ね755
基肥一発体系	コシヒカリ	28kg (5月上旬植・平地) 23kg (5月下旬植・平地) 32kg (5月上旬植・山間部)	—	—	—
	きぬむすめ	—	40kg	—	—
	ヒメノモチ	—	—	28kg	—
	ココノエモチ	—	—	—	37kg
	ミコトモチ	—	36kg	—	—
	峰の雪もち	—	—	33kg	—
	五百万石	—	—	25kg	—
	佐香錦	—	—	—	36kg
	改良雄町	—	30kg	—	—
	縁の舞	—	22kg	—	—

つきあかりは「GO一発821早生用」を10a当たり40kg施肥
※施肥量についてはP24～P36に詳しく記載しておりますのでご覧ください。

代かき

- 田植え3日前までに行い、田面の高低差を無くすよう丁寧に行いましょう。
- 代かきは水を少なめにして、表面の雑草や稲わらを土の中に埋め込むように作業を行いましょう。

育苗箱施薬剤

イナゴ 対策を重視する圃場に！

薬剤名	使用時期	主な対象病害虫
稲名人箱粒剤	播種時(覆土前)～ 移植当日	いもち病・白葉枯病・イナゴ類・イネドロオイムシ・イネミスゾウムシ・フタオビコヤガ・ニカメイチュウ・ウンカ類等
稲大将箱粒剤	播種時(覆土前)～ 移植当日	いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・紋枯病・穂枯れ(ごま葉枯病菌)・内穎褐変病・イネミスゾウムシ・イネドロオイムシ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・ニカメイチュウ・フタオビコヤガ・イネツトムシ・コブノメイガ・イナゴ類

紋枯病 対策を重視する圃場に！

薬剤名	使用時期	主な対象病害虫
ルーチンブライト箱粒剤	播種時(覆土前)～ 移植当日	いもち病・紋枯病・イナゴ類・イネドロオイムシ・イネミスゾウムシ・フタオビコヤガ・ニカメイチュウ等

ウンカ 対策を重視する圃場に！

薬剤名	使用時期	主な対象病害虫
フルスロトル箱粒剤	播種時(覆土前)～ 移植当日	いもち病・紋枯病・イネドロオイムシ・イネミスゾウムシ・フタオビコヤガ・ニカメイチュウ・ウンカ類・コブノメイガ等

稲こうじ 対策を重視する圃場に！

薬剤名	使用時期	主な対象病害虫
トリプルキック箱粒剤	移植3日前～ 移植当日 イナゴ類は移植当日のみ	いもち病・紋枯病・稲こうじ・イナゴ類・イネドロオイムシ・イネミスゾウムシ・フタオビコヤガ

※詳しい内容はP38をご覧ください。

●育苗箱施薬剤散布における注意事項

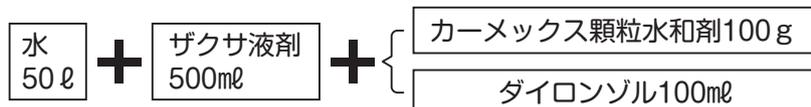
- 育苗ハウス使用後、後作に野菜類を栽培する場合は、育苗箱施薬剤は必ずハウス外で散布して下さい。また、育苗箱施薬剤の播種同時散布も行わない。
- 必ず1箱当り50gの使用量を守りましょう。
- 間違えて水稻除草剤を使用しないでください。P44参照

畦畔および農道等の除草

用途	使用時期	薬剤名	薬量	水量	散布面積	使用回数
抑草効果 + 除草剤	雑草発生前～ 生育初期	カーメックス 顆粒水和剤	150g～ 300g	25ℓ～ 300ℓ	10a	どちらか 1回
	雑草発生前～ 生育初期 ただし、収穫 30日前まで	ダイロンゾル	200mℓ～ 250mℓ	100ℓ	10a	
除草剤	4月～6月 雑草発生盛期	バスタ液剤	500mℓ～ 1000mℓ	100ℓ～ 150ℓ	10a	2回以内
		ザクサ液剤	500mℓ～ 1000mℓ	100ℓ～ 150ℓ	10a	2回以内
抑草剤	発生初期～ 生育期	グラスショート 液剤	300～ 500mℓ/10a	50～ 100ℓ/10a	10a	3回以内

※風の強い日は稲やその他作物にかからないように注意してください。

例)



※ザクサ液剤にカーメックス顆粒水和剤もしくはダイロンゾルを混用して散布すると抑草期間が長くなります。

《農作業メモ》

令和7年 4月

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	昭和の日
30	火	

5月

適切な初期管理で良質米生産を!

田 植 え

—細植え・浅植えを心掛けましょう—

- (1) 適正莖数とするため栽植密度は60株/坪とする。
(ただし平坦部高地力地帯では50株/坪とする)
- (2) 田植後5日間は、苗が水没しない程度の深水にする。
- (3) 植付け本数は1株3～4本の細植えにする。植付け深さは2～3cmの浅植えにする。
5cm以上の深植えは分けつを抑制します。



標準植付 2～3cm 分けつ順調

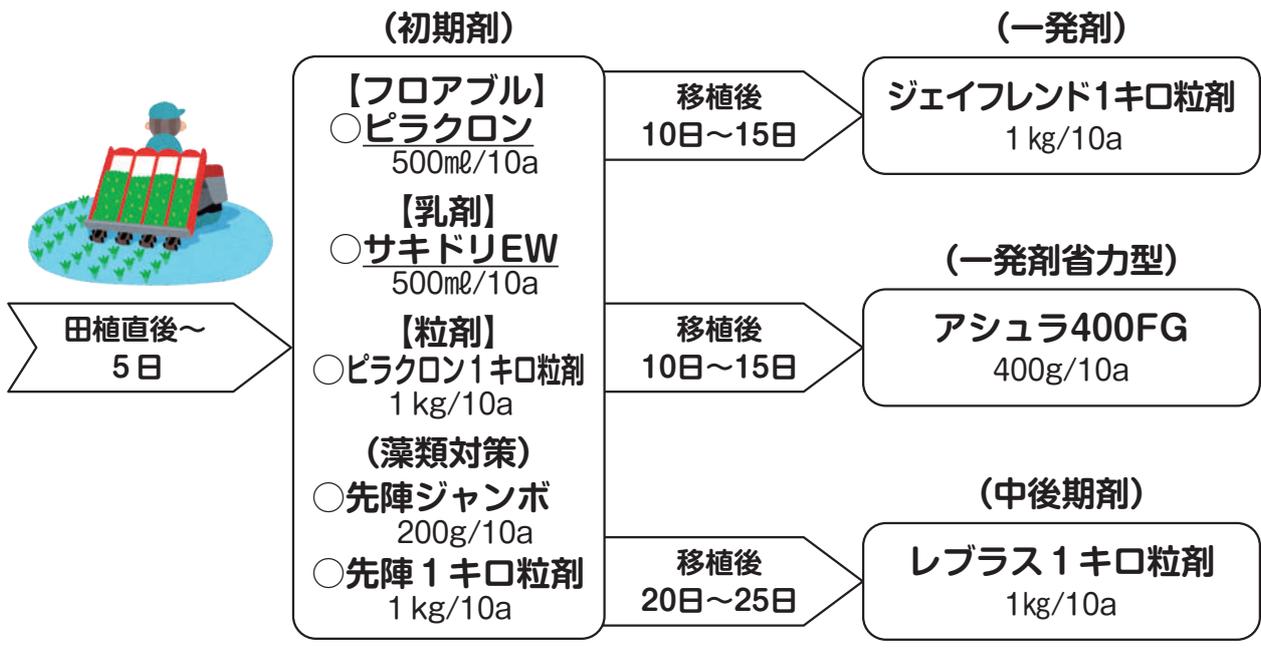


深植 5cm 分けつ悪い

水田除草体系

—除草剤散布後は7日間止め水を徹底しましょう—

雑草が多い圃場、または昨年と違う品種を作付した圃場の漏生稲発生防止対策として、下記の体系処理を行って下さい。



※散布上の留意点

- (1) フロアブル剤、ジャンボ剤、FG剤は特に水持ちの良い圃場で使用する
- (2) 藻が発生した圃場では、モゲトン粒剤を2～3kg/10a散布する

田植後の管理

- 田植後活着するまではやや深水とし、活着後は分けつの発生を促し、莖数を確保することが必要となるので、除草剤処理期間を除いては3cm程度の「浅水管理」とする。(灌水は夕方～早朝とし、日中は極力水の出入りを止める)
- 気温が低いとき、風が強いとき、除草剤を散布した時は「深水管理」とする。
- 生ワラ等による有害ガスの除去を図るために、中干しまでに2～3回の軽い中干しを繰り返す。(根腐れ防止対策)
- 本田初期害虫の防除箱施薬剤を散布していない圃場で、イネドロオイムシ・イネミスゾウムシの発生が見られた場合または、箱施薬剤散布を行なってもイネドロオイムシ・イネミスゾウムシの食害が多い場合はなげこみトレポンを散布する。

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
なげこみ トレポン	5葉期以降(収穫 21日前まで)	水溶性容器 4～6個	水田に水溶性容器 のまま投げ入れる

中・後期除草剤

●ノビエの取りこぼしに –ノビエのみに効果がある除草剤–

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
ヒエクリーン 1キロ粒剤 豆つぶ250	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	粒剤1kg/10a 豆つぶ250g/10a	湛水状態で散布 遅効性だが抑草 期間が長い
トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	1kg/10a	湛水散布または 無人航空機による 散布
トドメMF 乳剤	移植後14日～ ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)	200ml/10a (25～100ℓ) (希釈水量)	湛水散布または 落水散布

●広葉雑草の取りこぼしに –広葉雑草のみに効果がある除草剤–

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
バيسコーブ 1キロ粒剤	移植後14～60日 (収穫45日前まで)	1kg/10a	湛水散布 ごく浅く湛水して散布 又は無人航空機による散布

●ノビエも広葉も残った場合

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
レブラス 1キロ粒剤 ジャンボ	移植後14日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	粒剤1kg/10a ジャンボ400g/10a	湛水状態で散布 遅効性だが抑草期 間が非常に長い
ソニックブーム Z1キロ粒剤 Sジャンボ	移植後14日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	粒剤1kg/10a ジャンボ500g/10a	湛水状態で散布 幅広い草種に高 い効果
ウィードコア 1キロ粒剤	移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1kg/10a	湛水散布 すばやい効果発 現効果
アレイル SC	移植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで)	500ml/10a 少量散布は25～50ℓ 通常散布は50～100ℓ	湛水散布または 落水散布 根から有効成分を吸収

《農作業メモ》

令和7年 5月

1	木	
2	金	
3	土	憲法記念日
4	日	みどりの日
5	月	こどもの日
6	火	振替休日
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

6月

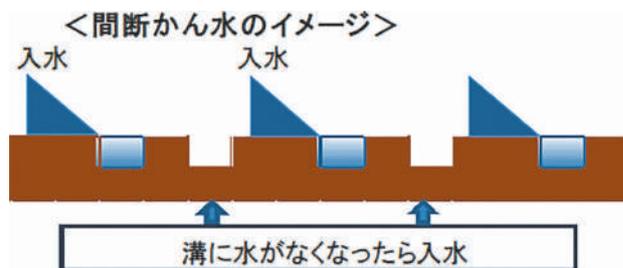
中干し・溝切りで健全な稲体づくり!

中干し

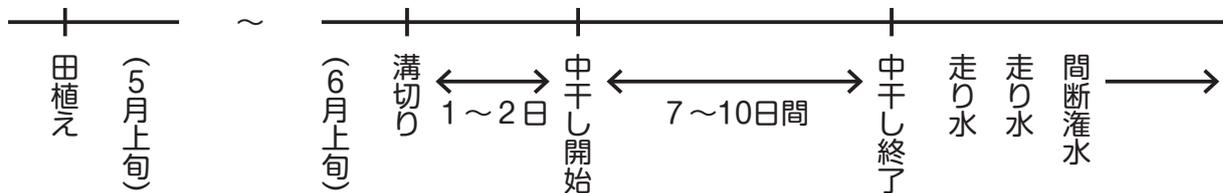
—中干しは根の健全化と、無効分げつを抑える大切な作業です—

◎中干しの方法

- 中干しは水口を避け畦畔から1メートル程度入ったところの平均的な株を数株確認し、60株植えの場合1株当たり16本、50株植えの場合19本、45株植えの場合22本程度が確保されたら開始する。(5月初旬田植の場合は6月初旬頃より中干し開始)
- 中干しを行う際は、あと口の板をできるだけ深く下に下げる。
- 中干しの期間は「7日～10日」を目安に行い、ほ場を歩いて足跡が残る程度、又は軽くひび割れが入る程度とし、湿田では程度を強める。
- 極端な大きなひび割れはダメ。砂質で秋落ちしやすい圃場、生育が進んでいない圃場は間断灌水にとどめる。水が少なく、一度水を落とすと、たまらない圃場は中干しを行わない。
- 中干し後の入水は走り水、掛け流しを繰り返してから湛水状態する。その後は間断灌水の水管理を行う。
※間断灌水とは、田に水を満した状態と水を落として干している状態とを数日おきに繰り返すこと。



《中干しの例》

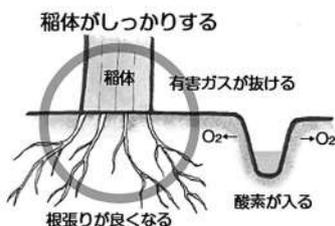


◎中干しの効果

- | | | |
|-------------|-----------------------|----------|
| 1. 元気な根づくり | ⇒根腐れ・倒伏防止 | ⇒登熟・食味向上 |
| 2. 余分な窒素を抜く | ⇒過剰生育抑制 | ⇒乳白粒発生防止 |
| 3. 田面を固くしめる | ⇒収穫直前まで通水をしてコンバイン作業楽々 | |

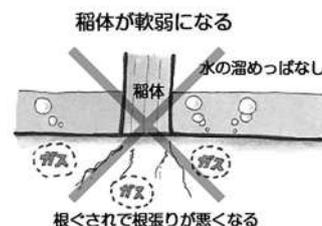
中干しをした稲体

- 水管理が良かったため根が健全。
- 下葉の枯れ上りが少ない。



中干しをしない稲体

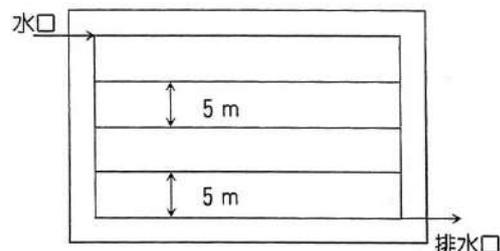
- 水管理が悪いため根ぐされを生じる。
- 下葉の枯れ上りが多い。



溝切り

◎溝切りの方法 (右図参照)

- 中干し開始1～2日前を目安に行う。
- 溝の間隔は5mおきを目安とし、湿田の場合は間隔を狭める。
- 刈取り7日～10日前まで、圃場に応じた通水管理を行うための重要な作業



中干し後の雑草とりこぼしに

	中後期剤		中後期剤
 ヒエ	ヒエクリーン トドメMF乳剤	 コナギ	バイスコープ レブラス
 ホタルイ	バイスコープ	 クサネム	ウィードコア レブラス
 オモダカ	レブラス バイスコープ ウィードコア	 イボクサ	ウィードコア バイスコープ
 クログワイ	レブラス バイスコープ		

病害虫の予防

◆育苗箱施薬できなかった圃場

防除期間	対象病害	薬剤名	使用量	使用方法
6月 上・中旬	いもち病	オリゼメート 1キロ粒剤	1~1.3kg/10a	散布
	白葉枯病	オリブライト 1キロ粒剤	1 kg/10a	散布

着色粒発生防止



雑草がほ場内に多く発生していると被害粒が多くなります

《農作業メモ》

令和7年 6月

1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	

7月

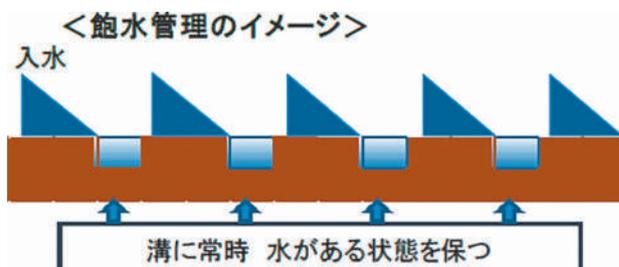
適切な穂肥で良質米生産を!

水管理

・・・飽水管理で高品質化

●幼穂形成期から穂ばらみ期の水管理

- 中干し後の間断灌水から飽水管理へ切り替える。刈取り7日～10日前まで飽水管理に努め、常に土壤に水分を与え乾き過ぎないようにする。
- 穂ばらみ期に極端な低温が予想される場合は、深水管理とする。
- 台風の通過が予想される場合は深水管理
- 通水する場合は、可能な限り夜間通水に努め、根の活力低下を防ぐ。



田面の足跡の底や溝に水が溜まっている箇所が見られたら再び入水する水管理

出穂期とは・・・茎から穂の先端部が抽出することを出穂と言います。初めて出穂した日が出穂開始日で、水田全体の40%～50%が出穂した日が出穂期です。また、80%～90%が出穂した日が穂揃期です。出穂期と穂揃期は違うので注意して下さい。

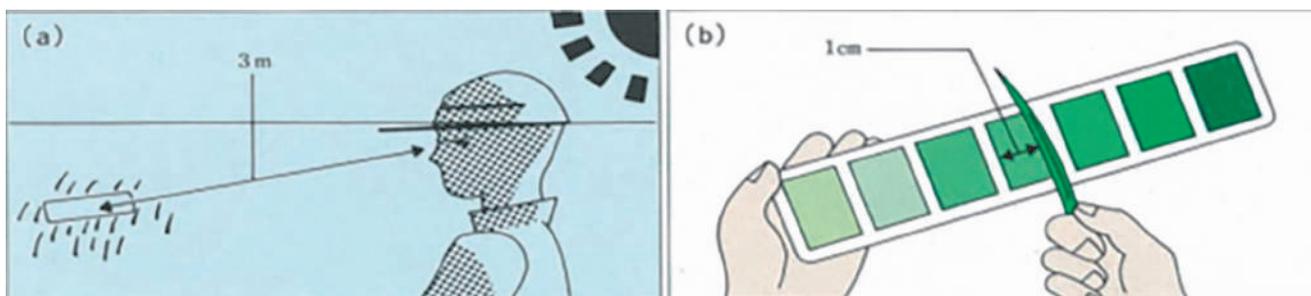
穂肥施用時の注意点

一発肥料体系の場合、基本的には穂肥は施用しない。

1. 葉色の確認

最初に圃場全体の葉色を見ます。次に、畦畔から約1 m以上入ったところで葉色板（カラースケール）を用い、太陽を背にして約3 m離れた場所から観測します。二人一組で行うと判定しやすくなります。但し、降雨後では葉色が濃く見える場合もありますので、天気の良い日に確認しましょう。

- 群落測定(a)：葉色カラースケールを水稻群落の中に立てるか、手に持ち、太陽を背にして約3 m離れた位置から読み取るようにする。
- 個葉測定(b)：葉を葉色カラースケールから1 cmほど離して読み取るようにする。



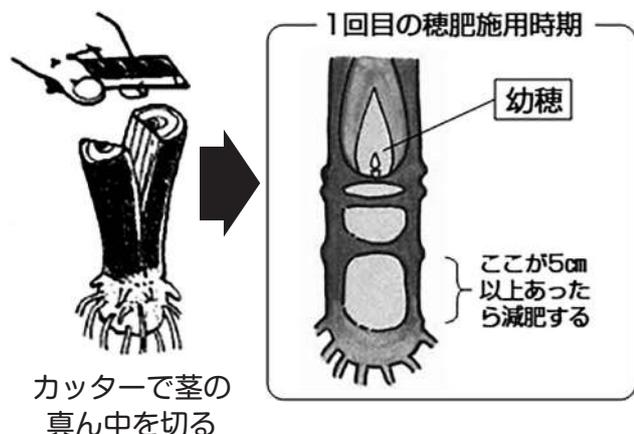
群落観測

個葉測定

群落葉色と個葉葉色では、群落葉色の方がほぼ1だけ低い値として読み取られます。

2. 茎数の確認と幼穂長の測定

茎数の確認と幼穂長の測定が、穂肥適期の判定を行う目安となります。最初に葉色板を用いた場所で平均的な生育の3株の茎数を確認します。次に各親茎を採取し、カッター等で茎の中心を割って幼穂長を測定します。



【参考】1㎡あたりの茎数（本）換算表

株間	18cm (60株/坪)	20cm (55株/坪)	22cm (50株/坪)	24cm (45株/坪)
1株茎数				
18本	327	300	273	245
22本	400	367	333	300
26本	473	433	394	355
28本	509	467	424	382
30本	545	500	455	409
32本	582	533	485	436
34本	618	567	515	464

3. コシヒカリにおける穂肥の適期の確認

幼穂の長さが約5mmの時点が第1回目（出穂18日前）の穂肥時期（適期）となります。1回目の施肥から8日後が第2回目の穂肥時期となります。

例えば、5月連休に田植えを行った圃場では、平坦部は7月上旬、山間部では7月中旬が穂肥の時期と予測されます。但し、生育は圃場の環境等によって一定ではありませんので、生育（葉色）をよく確認しましょう。

4. コシヒカリにおける窒素施肥量の決定

穂肥における窒素施用量の目安

茎数 (本/㎡)	幼穂形成期葉色（葉色板群落測定値）					
	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5
320~339	2.6kg/10a					
340~359						
360~379						
380~399	2.0kg/10a					
400~419						
420~439						
440~459	1.0kg/10a					
460~479						
480~499						
500~519	無施用または、1.0kg/10a					
520~539						
540~559						
560~579						

5. それぞれの肥料による施肥

コシヒカリ 標準的施肥量

窒素量	肥料	化成肥料17-0-17 (17-0-17)		穂肥34号 (15-4-15)	おてがるくんNK (15-0-6)
		1回目出穂18日前 幼穂長約5mm	2回目 1回目の8日後	1回 出穂20日前 幼穂長約2mm	1回目出穂18日前 幼穂長約5mm
2.6kg		10kg	5kg	17kg	17kg
2.0kg		7kg	5kg	13kg	13kg
1.0kg		—	6kg	7kg	6kg

コシヒカリ以外 標準的施肥量

	品種名	施肥時期	生育期	施肥量	
				化成17-0-17	穂肥34号
穂肥1回目	きぬむすめ	出穂20日前	幼穂長 約2~3mm	15kg	25kg (出穂25日前)
	ヒメノモチ	出穂20日前		15kg	24kg (出穂25日前)
	ココノエモチ				28kg (出穂25日前)
	ミコトモチ	出穂25日前	—	15kg	25kg
	峰の雪もち	出穂30日前	—	12kg	—
	五百万石	出穂20日前	幼穂長 5mm	10kg	20kg (出穂25日前)
	佐香錦				
	改良雄町	出穂25日前	—	13kg	25kg
	縁の舞	出穂18日前	幼穂長 約2mm~5mm	8.5kg	17kg
穂肥2回目	きぬむすめ	出穂10日前	—	15kg	—
	ヒメノモチ	出穂10日前	—	10kg	—
	ココノエモチ		—		—
	ミコトモチ	出穂15日前	—	10kg	—
	峰の雪もち	出穂18日前	—	12kg	—
	五百万石	出穂10日前	—	7kg	—
	佐香錦		—		—
	改良雄町		—	10kg	—
縁の舞	—		6.5kg	—	
穂肥3回目	峰の雪もち	出穂10日前	—	10kg	—

基幹防除

・・・きれいな米作りは防除の完全実施から

《コシヒカリ》

■ 基幹防除

□ 随時防除

	7月			8月		9月
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
		出穂期				
液剤体系	出穂前7～3日 アミスタートレボンSE 60～150ℓ/10a (1000倍) いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等
	出穂前7～3日 ブラシントレバリダ粉剤DL 3～4kg/10a カメムシは4kg/10a いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル粉剤DL 3kg/10a カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル粉剤DL 3kg/10a カメムシ類・ウンカ類等
粒剤体系	出穂前14～10日 ゴウケツモンスター粒剤 3kg/10a いもち病・紋枯病 稲こうじ病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル豆つぶ 250g/10a ウンカ類：250g～500g/10a カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル豆つぶ 250g/10a ウンカ類：250g～500g/10a カメムシ類・ウンカ類等
	出穂前7～3日 アミスタートレボンSE 60～150ℓ/10a (1000倍) いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等

《きぬむすめ》

■ 基幹防除

□ 随時防除

	7月			8月		9月
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
		出穂期				
液剤体系	出穂前7～3日 アミスタートレボンSE 60～150ℓ/10a (1000倍) いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等
	出穂前7～3日 ブラシントレバリダ粉剤DL 3～4kg/10a カメムシは4kg/10a いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル粉剤DL 3kg/10a カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル粉剤DL 3kg/10a カメムシ類・ウンカ類等
粒剤体系	出穂前14～10日 ゴウケツモンスター粒剤 3kg/10a いもち病・紋枯病 稲こうじ病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル豆つぶ 250g/10a ウンカ類：250g～500g/10a カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル豆つぶ 250g/10a ウンカ類：250g～500g/10a カメムシ類・ウンカ類等
	出穂前7～3日 アミスタートレボンSE 60～150ℓ/10a (1000倍) いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ類等			出穂期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等		乳熟期 スタークル液剤10 60～150ℓ/10a (1000倍) カメムシ類・ウンカ類等

～イネカメムシにご用心～

水稻の害虫は春先から夏にかけてイネ科雑草等を介して移動していきます。近年カメムシ類の被害が拡大する中「**イネカメムシ**」の発生が雲南地区本部管内でも確認され、大きな被害が発生しています。基幹防除を徹底しましょう。

Q. イネカメムシって？



A.

- ・越冬場所（林縁の落葉下など）から7月中旬頃に**直接水田に飛来**する。
- ・名前の通り「**稲**」にしか飛来しない。
- ・極早生→早生→中生→の順に移動して加害する。
- ・夜に活動が活発になる。
- ・出穂直後の小穂軸（不稔）、籾の基部を加害（斑点米）する。



食害された玄米（斑点米）
【R6年度出荷米きぬむすめ】



イネカメムシ多発圃場（不稔）

【防除対策】

出穂期の薬剤散布を適期に行うことが、カメムシの密度を下げる効果に繋がります。

①不稔の発生を防ぐため穂ばらみ期～出穂期の防除（**1回目**）が重要。

②斑点米の発生を防ぐために出穂7日後の防除（**2回目**）を行う。

※色彩選別機で全てを取り除くことはできませんので、本田防除を徹底しましょう。

《重要》

令和7年産米に向けて**基幹防除（2回の防除）**を計画しましょう。
特に平野部は斑点米の被害だけでなく「不稔」による収量減が確認されています。

基幹防除

(随時防除)

昨年稲こうじ病が
発生した圃場には

稲こうじ病

7月上旬
モンガ
リット
1キロ粒剤
1~1.3kg/10a



出穂前に感染する。
穂ばらみ期~出穂にかけて雨
が多く、低温・日照不足に発
生が多い。

イナゴ

6~7月
トレボン
粉剤DL
3~4kg/10a



成虫、幼虫ともに葉を食害する。

いもち病

ブラシン
粉剤DL
3~4kg/10a



水稻での最重要防除病害。
箱処理剤をしっかりと施薬するこ
とが重要。

紋枯病

7月上旬
協友モンセレン
粒剤DL
3~4kg/10a



病斑は下位から上位へ次第に進展する。穂ばらみ期以降に急激
に上位進展する。

フタオビコヤガ

6~7月
トレボン
粉剤DL
3kg/10a



幼虫が稲体に潜り食害し、稲の
茎が折れて倒伏する場合もある。

ニカメイチュウ

6月上旬
トレボン
粉剤DL
3~4kg/10a



幼虫が稲体に潜り食害し、稲の
茎が折れて倒伏する場合もある。

追加除草の実施

カメムシの生息密度を下げるため、追加除草を実施する。

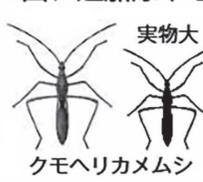
○畦畔・農道等の雑草は7月上旬にもう1回、追加除草を行う。

1位



アカスジカスミカメ

3位



クモヘリカメムシ

2位



ホソハリカメムシ



アカヒゲホソミドリカスミカメ トゲシラホシカメムシ

《農作業メモ》

令和7年		7月	積算温度
1	火		
2	水		
3	木		
4	金		
5	土		
6	日		
7	月		
8	火		
9	水		
10	木		
11	金		
12	土		
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		
18	金		
19	土		
20	日		
21	月	海の日	
22	火		
23	水		
24	木		
25	金		
26	土		
27	日		
28	月		
29	火		
30	水		
31	木		

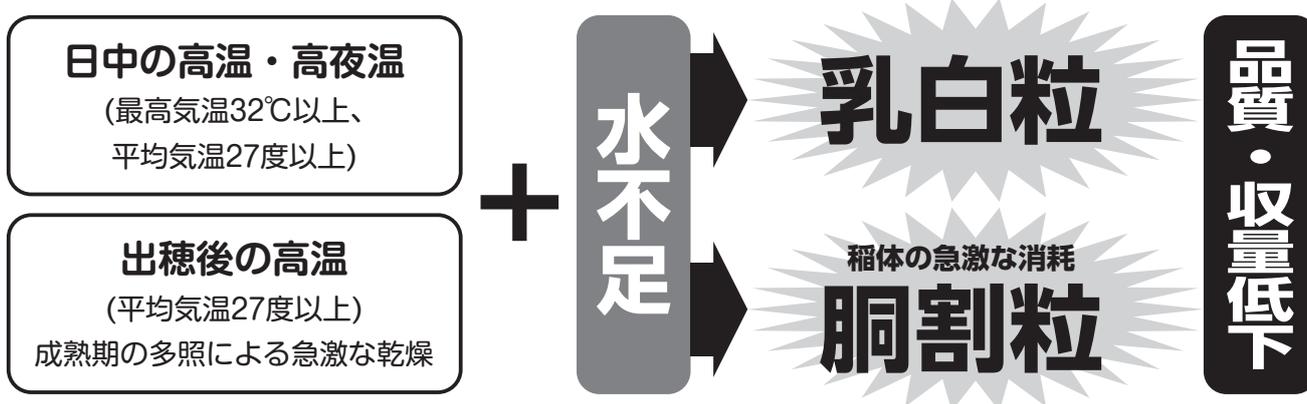
8月

9月

きめ細かな水管理と防除の徹底!

品質向上のための水管理

- 刈取り7日～10日前まで、飽水管理継続する。
- 台風等によるフェーン現象時には、事前に通水する。
- 高温時には可能な限り、夜間の通水に努める。
- 飽水管理後は、刈取り直前まで、圃場に応じた通水管理を行う。



乳白粒・胴割粒の発生を防止するために、きめ細やかな水管理に努めましょう!

カメムシ等病害虫防除の徹底

❖粉剤散布の場合

薬剤名	使用時期	10a当たり使用量	本剤使用回数
ブラシントレバリダ粉剤DL	収穫14日前まで	3～4kg (カメムシは4kg)	2回まで
ノンブラストレボン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg (カメムシは4kg)	2回まで
ビームスタークル粉剤5DL	収穫7日前まで	3～4kg	3回まで

❖液剤散布の場合

薬剤	使用時期	希釈倍率	10a当り使用液量	使用方法
アミスタートレボンSE	収穫 14日前まで	1000倍	60～150ℓ	散布
		300倍	25ℓ	
		30倍	3ℓ	空中散布
		8倍	800ml	無人航空機散布
スタークル液剤10	収穫 7日前まで	1000倍	60～150ℓ	散布
		300倍	25ℓ	
		30倍	3ℓ	空中散布
		8倍	800ml	無人航空機散布

詳しくはP 39をご覧ください。

適期刈取りで品質向上

- 青味粉率10～15%を刈取り目安とする。
- 出穂後の積算温度での目安

※積算温度は出穂期からの日数×日平均気温

品 種	出穂からの積算温度（日数×日平均気温）
コシヒカリ	930℃～1100℃
きぬむすめ	950℃～1100℃
つきあかり	1000℃～1100℃
ヒメノモチ	870℃～930℃
ココノエモチ	930℃～1050℃
ミコトモチ	891℃～1054℃
峰の雪もち	909℃～1007℃
五百万石	900℃～970℃
佐香錦	900℃～970℃
改良雄町	970℃～1030℃
縁の舞	950℃～1000℃

☆刈取り適期の穂



青味粉10%～15%

適正な乾燥調製できれいなお米!

圃場のクサネムは刈取り前に必ず取り除きましょう

- ・クサネムの種子は玄米と同程度の大きさで非常に硬い粒ですのでもみすり、調整作業でも取り除く事ができません。
- ・クサネムの種子は検査時に異種穀粒とみなされ、等級を下げる原因となります。

稲こうじ病にかかった籾を刈取り前に取り除きましょう

調整作業で玄米に「すす」が付着した状態となったり、玄米の中に稲こうじ病粒が混ざって入っていると検査保留となりますのでご注意ください。

事前点検

- ・乾燥機、籾摺り機、ライスグレーダー等は事前に点検する。
- ・水分計の調整・点検は事前に行う。
- ・品種が変わる際には、十分に点検清掃を行う。
※異品種混入を防ぐ（コンタミ防止）

乾燥

- ・刈り取った生籾は刈取り後速やかに乾燥機へ張り込み送風を行う。
※刈り取った生籾の放置は「ヤケ米」の原因
- ・急激な乾燥は行わない。一般的に乾減率は1時間0.8%程度を目安に行う。
但し、もち及び酒米の乾減率については0.6%程度を目安に行う。
- ・張り込み時水分が高い場合は2～3時間の送風後、35℃～38℃の低温で5～6時間程度乾燥する。
- ・適正な水分に調整するために一旦17%程度の状態で5～8時間おいてから、14.3%～15.0%に仕上げる2段階乾燥を行う。
- ・急激な乾燥や高温乾燥は胴割米の発生原因になるので注意する。

籾すり

- ・籾すり前の水分点検や機械の調整(ロール間隔・選別部)を行う。
- ・籾摺りは、乾燥後、籾が熱を持っているうちは行わない。
⇒「肌すれ」や「胴割れ米」の発生原因となり、品質低下を招く。
- ・籾摺りと選別は流量を適正に、選別機の能力の70%程度の速度で行う。
- ・品種にあった適正網目のライスグレーダーを使い、整粒歩合を80%以上に調整する。

網目	サイズ	品種名
LL	1.90mm	うるち米、もち米
—	2.0mm	酒米

「もったいない!! もみ混入」

例年等級落ちの原因の中で大きな比重を占めています。

※調整はじめは、もみの混入が多いため、混入していないか確認をして多い場合は、最初の1袋に関しては、2度摺りを行ってください。調整中は、2～3袋に1回はもみ混の確認を行ってください。



もみ混入は黒いカルトンで確認

出 荷

- ・ 皆掛け重量（風袋込30.5kg）の量目不足にならないように調整する。
- ・ 自動計量機だけでなく、点検を受けた台秤で量目を確認する。
- ・ 包装はしっかり3回折りをし、ほどけないように結ぶ。
- ・ 縦結びにならないよう、正しく結ぶ。しっかり縛らないと、破袋・荷崩れの原因になる。
- ・ 紙袋へ年産・銘柄・生産者名等の記載事項は明確に記入する。
- ・ 生産年度の訂正は出来ないの
で注意する。
- ・ 網下米穀、規格外米も全量J
Aへの出荷をお願いします。

《農作業メモ》

令和7年		8月	積算温度
1	金		
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		
8	金		
9	土		
10	日		
11	月	山の日	
12	火		
13	水		
14	木		
15	金		
16	土		
17	日		
18	月		
19	火		
20	水		
21	木		
22	金		
23	土		
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

《農作業メモ》

令和7年		9月	積算温度
1	月		
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		
7	日		
8	月		
9	火		
10	水		
11	木		
12	金		
13	土		
14	日		
15	月	敬老の日	
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		
20	土		
21	日		
22	月		
23	火	秋分の日	
24	水		
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		

10月

米づくりの基本は土づくりから!

稲づくりの基本は土づくりから!!

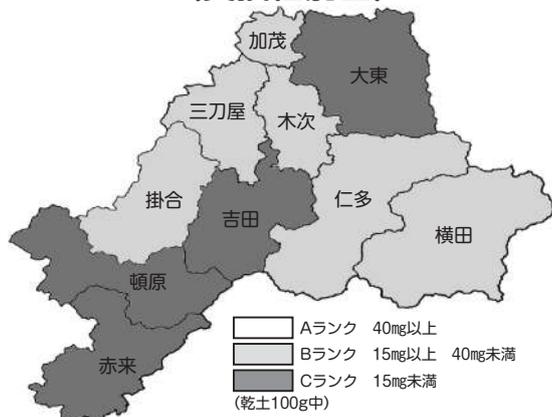
土づくりで良質米競争に勝とう!!

管内の土は全体的に加里分・けい酸分・鉄分などが不足しており、毎年実施される土壌分析でもその傾向が顕著にあらわれています。堆肥や土壌改良材を投入せずに長年作付してきた老朽化水田や養分の溶脱しやすい砂壤土の圃場では特にこれらの成分が不足している事が考えられる為、下記のマップを参考に「土づくり」を実施し、良質米競争に打ち勝ちましょう!!

土壌分析の結果、良質米生産に重要な交換性加里・有効態けい酸・遊離酸化鉄・腐植が下記のマップのとおり不足しています。

Aランク 現時点では目標値にある地区
 Bランク 不足傾向にある地区
 Cランク 極端に不足傾向にある地区
 ※全農広域土壌分析センター広島調べ（分析点数1,700点）

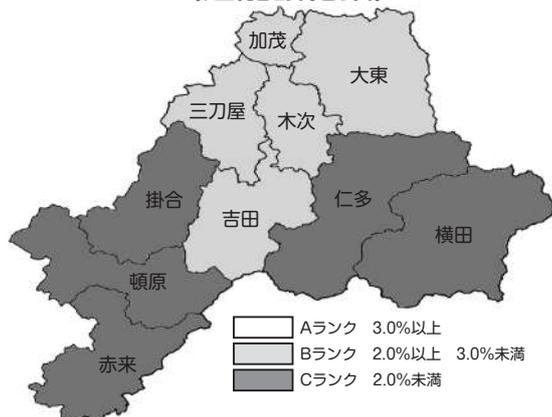
〈交換性加里〉



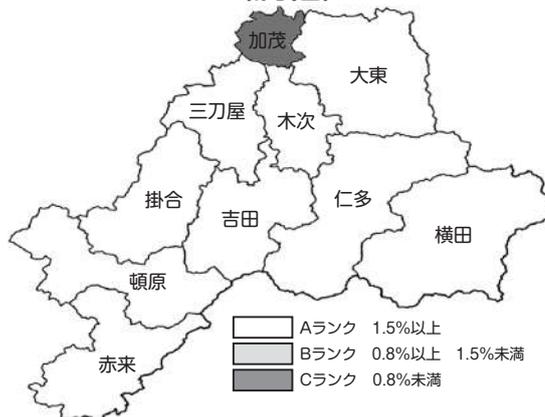
〈有効態けい酸〉



〈遊離酸化鉄〉



〈腐植〉



土壌診断結果から見たオススメの土づくり肥料

	地区名	土づくり資材
加里重点地区	赤来・頓原・掛合・吉田・大東	田んぼの守 75kg/10a けい酸加里 20kg～30kg/10a
けい酸重点地区	赤来・大東・加茂	田んぼの守 75kg/10a けい酸加里 20kg～30kg/10a
酸化鉄重点地区	赤来・頓原・掛合・仁多・横田	田んぼの守 75kg/100a
腐植重点地区	加茂	ふりかけ堆肥 eco 100kg/10a アツミン 20kg～40kg/10a

土づくりのポイント

土づくり対策

(1) 有機物の還元・土づくり資材の秋施用

① 稲わらを全量すきこむ。

※ 稲わらの腐熟促進に、**アグリ革命**を施用すると効果的です

② 土づくり資材等の10a当たりの施用目安

資材名	基本施用量	備 考
新ふりかけ堆肥 eco	100kg	通常の堆肥の10倍の腐植酸を含む。 通常堆肥の1/10の散布量 でよいため省力化が図れる。
田んぼの守	60kg	雲南地域の土壌に不足しがちな成分を効率的に供給できるように設計された土壌改良剤
ミネラル G	100kg	水稲に必要な成分をバランスよく配合。
アグリ革命	2kg	省力的に稲わらを腐熟化させる。
アグリ革命アクア	100mℓ	

～こんな土は赤信号！～

① 作土が浅く、土が硬くなっている。

深耕して作土を深くする（目標 15cm～）

② 排水・透水性が悪い。

排水の悪い田については、秋・冬期に補助暗渠・明渠により、乾田化を進めましょう。

③ 毎年収量が上がらない。収量が変動しやすい。

地力が低下し保肥力も弱くなっている可能性があります。有機物の施用を行いましょう。

④ 秋落ちを起こしやすい。

有機物の少ない土は地力が低下し保肥力も弱くなるため、秋落ちしやすくなります。有機物が少なくなるとほ場が硬くしまり、碎土も難しくなります。

⑤ ごま葉枯病等の病害を起こしやすい。

肥料の3要素（窒素・リン酸・カリ）以外にも、植物が生育するためにはミネラル成分が必要です。

《肥料成分の役割》

ケイ酸：茎葉を堅くする。根の活性を高め秋落ちを防止する。

苦土：葉緑素の成分。これを欠くと作物が黄色になる。

鉄分：土壌の酸素欠乏による障害から根を守る。秋落ち田の改善効果がある。

マンガン：秋落ち防止の効果がある。特にごま葉枯病の軽減に役立つ。

《農作業メモ》

令和7年		10月
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	スポーツの日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

